

使用中に正常に動作しなくなった時は、

まず本書35～36ページの「故障かな?と思ったら」を参考にしてチェックして下さい。
「処置」を行っても改善が見られない時は、お買い上げ店、または当社ユーザーサービス係にお問い合わせ下さい。

保証をお受けになる場合、

お買い上げ店に不具合内容を具体的に提示の上、リモコン、エンジンスターター本体、室内アンテナ、警報機本体をセットにして、車検証のコピー、保証書と共に依頼下さい。
なお、保証範囲につきましては、保証書裏面に記載の保証規定によります。

保証対象外の修理について、

保証期間を過ぎた場合や、使用上の不注意による故障等、保証の対象にならない場合の修理については、有償となります。保証書裏面に記載の保証規定をご覧ください。

盗難警報機+リモコンエンジンスターター

MitSuba

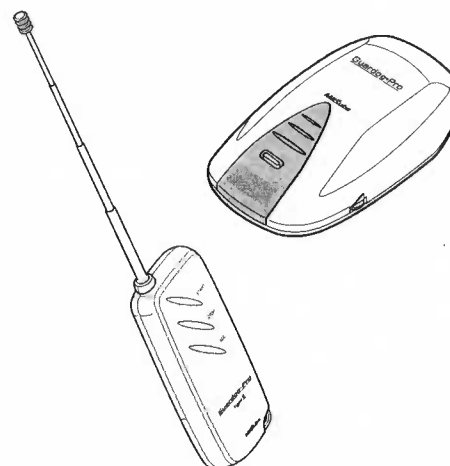
盗難警報機+リモコンエンジンスターター

Guardog・Pro Type E

CAR SECURITY ALARM SYSTEM + REMOTE ENGINE STARTER

ガードッグ・プロ

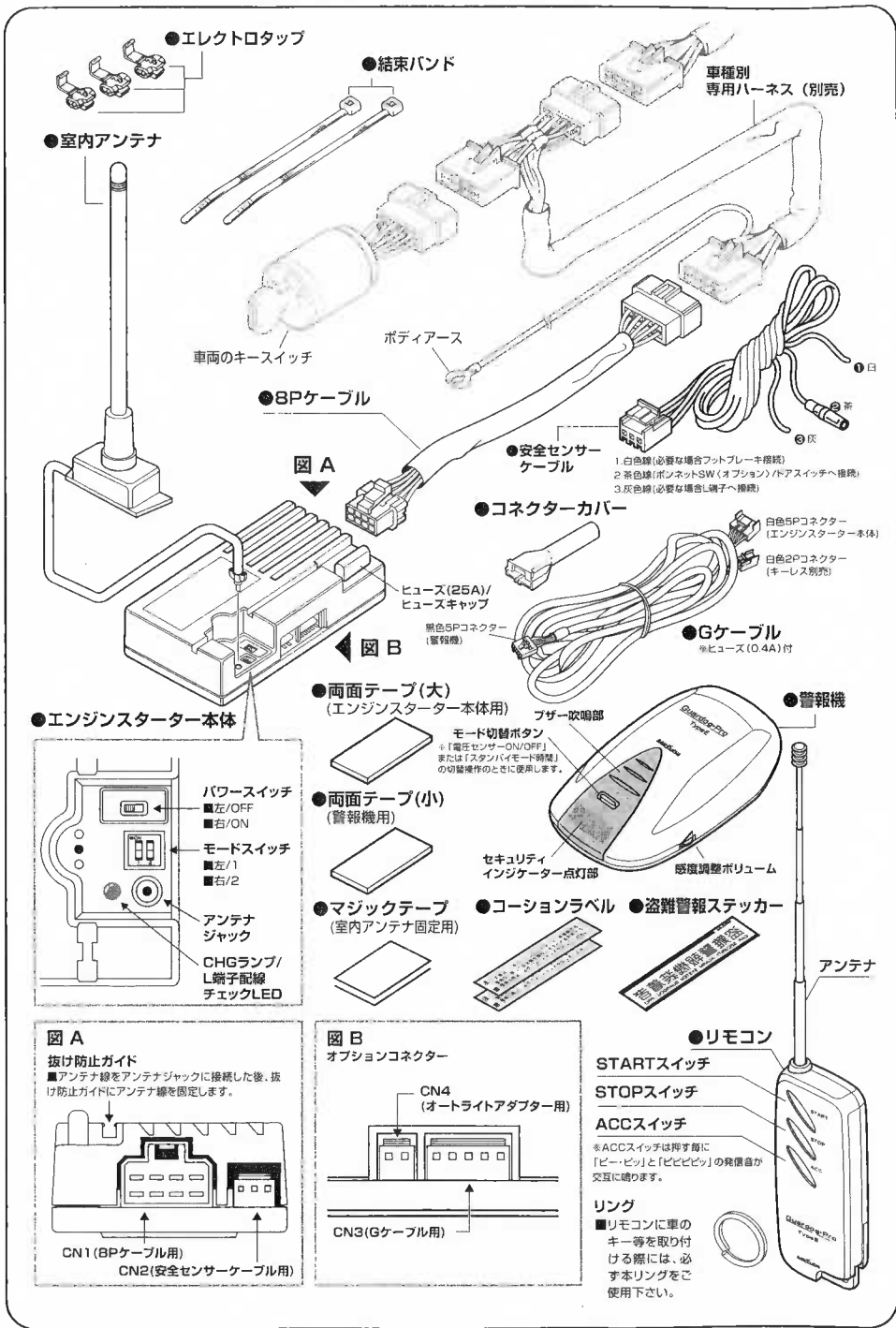
取付・取扱説明書(保証書付)



- ☆このたびは、ガードッグ・プロ タイプEをお買い上げ頂きましてありがとうございます。
- ☆ご使用になる前に、本冊子を必ずお読み頂き、正しくご使用下さい。
- ☆お読みになった後も、本冊子は必要な時ご利用出来るように大切に保管して下さい。
- ☆本製品を譲渡される場合や別の車に取り付け直す場合も、本冊子を必ず製品に付帯させ、お使いになる方がいつでも見られる様にして下さい。
- ☆本製品は日本国内でのみご使用出来ます。

この取付・取扱説明書では安全上重要な項目に下記のマークを表示しています。
各マークの意味は次の通りです。

- 危険** …… 取扱を誤った場合、死亡または重傷を負う危険性が高いことを意味します。
- 警告** …… 取扱を誤った場合、死亡または重傷を負う可能性が想定されることを意味します。また、法律に違反することを意味します。
- 注意** …… 取扱を誤った場合、傷害を負う危険が想定されることを意味します。また、物的損害が発生する恐れがあることを意味します。



はじめに

取り付け作業

操作方法

各機能について

オプション

その他

■パッケージ内容	2
■目次	3
■取り付け可能な車の条件	4
■安全に使用するための注意	5~7
□安全上の注意	(5~6)
□使用上の注意	(7)
■取り付け前の準備	8
■取り付け概念図	8
■専用ハーネス・室内アンテナ・エンジンスターター本体の接続	9
■警報機本体の接続	10
■オートマチック車の登録	11
■エンジンスターターの動作確認	12
□エラー発生時のQ&A	(12)
■うまく動作しない場合の対応(エンジンスターター)	13~16
□L端子検出方式への変更	(13)
□L端子誤配線チェック機能	(13)
□始動パターンの切替(グロー設定・解除)	(14)
□キー始動学習機能の設定	(15)
□フットブレーキ検出方式への変更	(16)
■警報機の動作確認	17~18
□電圧パルスセンサーの動作確認	(17)
□エラー発生時のQ&A	(17)
□振動センサーの動作確認	(18)
□エラー発生時のQ&A	(18)
■うまく動作しない場合の対応(警報機)	19~21
□電圧パルスセンサーのON/OFF切替方法	(19~20)
□スタンバイモード時間の切替方法	(20~21)
■仕上げ	21~22
□室内アンテナの取り付け	(21)
□未使用端子の処理、エンジンスターター本体の取り付け	(22)
□コーシヨラベルの貼り付け	(22)
□設定内容確認表への記入	(22)
■警報機をセットする	23
■ターボタイマー作動中に警報機をセットする	24
■警報機をリセットする	25
■リモコンを使用せずに警報機をリセットする	25
■リモコンでエンジン始動する	26
■リモコンでエンジン停止する	27
■誤動作軽減機能について	27
■警報履歴確認機能について	27
■アイドリング時間の設定	28
■ターボタイマー機能について	29~30
□ターボタイマーの設定/解除方法	(29)
□ターボタイマーの使用/停止方法	(30)
■スリープ機能について	30
■本機の電源を切る時は	30
■運転席ドアスイッチ配線を行う場合(エンジンスターター安全機能)	31
■ボンネットスイッチ(別売)を取り付ける場合(エンジンスターター安全機能)	32
■ボンネットスイッチ(別売)取り付けとドアスイッチ配線の両方を行う場合(エンジンスターター安全機能)	32
■オプション品(別売)のご案内	33
■キーレスアダプター(別売)の接続について	33
■メンテナンス	34
□電池の交換方法	(34)
□リモコンを紛失した時は	(34)
■故障かな?と思ったら	35~36
■主な動作仕様一覧	37
□リモコンについて	(37)
□エンジンスターター本体について	(37)
□エンジンスターター本体のモードスイッチについて	(37)
□警報機について	(37)
■仕様	38
■設定内容確認表	39
■保証規定	39
■アフターサービスについて	40
■保証書	40

取り付け作業

操作方法

各機能について

オプション

その他

●「EGSシリーズ適応車種一覧表」に記載されている車種であること。

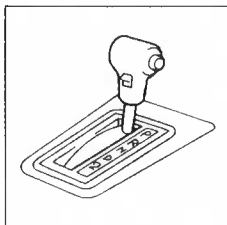
他のエンジンスターター、もしくはターボタイマー用ハーネスを流用・加工しての取り付けは絶対にしないで下さい。「EGSシリーズ適応車種一覧表」をよくご覧になり、車に適合した当社製専用ハーネスをご使用下さい。

●スターター作動時間が2.5秒以内でエンジンが始動出来る車である事。

適応車種は、以下の条件を考慮して選定しております。

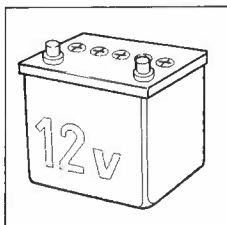
○オートマチック車であること。

エンジンスターター本体のオートマチック車判別機能により、マニュアル車への取り付けは出来ません。



○国産車であること。

外国車への取り付けは出来ません。



○12V車であること。

24V車への取り付けは出来ません。

○電子燃料噴射装置搭載車であること。

エンジン始動時にアクセル操作やチョークレバー操作を必要とする車、電子制御キャブレター搭載車への取り付けは出来ません。イグニッションキーのみでエンジンを始動する事が出来る車に取り付けが可能です。

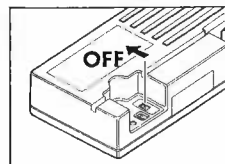


○イモビライザーを搭載していない車であること。

イモビライザー搭載車では、本システムでエンジン始動が出来ません。

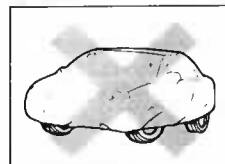
安全上の注意

危険

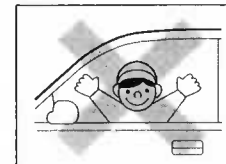


下記の場合には、パワースイッチを切って下さい。事故の恐れがあります。

- 整備、車検等で車を預ける場合。
- 整備、車検等を行う場合。
- 当商品の取り扱い方を知らない方が運転する場合。



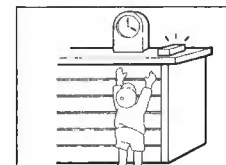
車にボディカバー等を掛けたままでリモコンでエンジン始動しないで下さい。火災の恐れがあります。



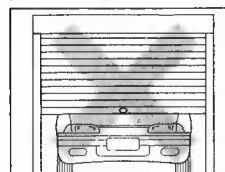
人(特にお子様)やペットが車内にいる時は、絶対にエンジンを始動したり、警報機をセットしたりしないで下さい。お子様による車両の操作やペットの思わぬ動きが重大事故につながる恐れがあります。



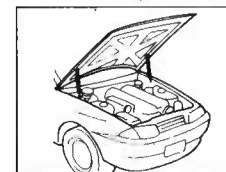
リモコンでエンジンを始動する時は、車の近くに燃えやすい物がないことを確認して下さい。火災の恐れがあります。



リモコンは、お子様の手の届く所には、置かないで下さい。事故の恐れがあります。



密閉されたガレージ内ではリモコンでエンジン始動しないで下さい。排気ガスが充満して危険です。



ボンネットを開ける時はエンジンスターター本体のパワースイッチを切って下さい。誤ってリモコンが操作されると事故の恐れがあります。安全のため別売のボンネットスイッチの取り付けをお勧めします。

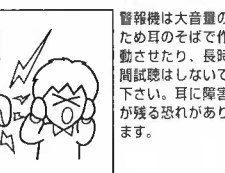
警告



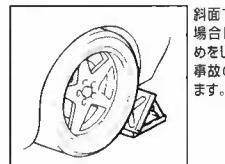
公道上では使用しないで下さい。公道上でのエンジンスターターの使用は違法となります。また、警報機は外乱振動により誤動作する恐れがあります。



この製品は特定小電力無線設備の技術基準適合証明を受けております。分解・改造することは法律で禁じられていますので絶対にしないで下さい。



警報機は大音量のため耳をそばで作動させたり、長時間試験はしないで下さい。耳に障害が残る恐れがあります。



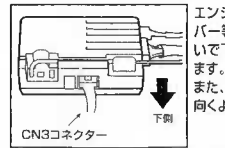
斜面で使用される場合は、必ず輪止めをして下さい。事故の恐れがあります。



リモコン裏面のラベルをはがしたり、ラベルの無いものを使用することは法律で禁じられていますので絶対にしないで下さい。

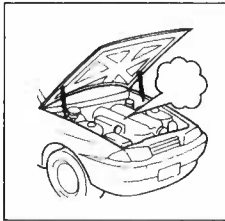


警報機をセットしたまま運転しないで下さい。重大な事故の原因になります。

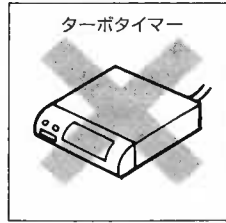


エンジンスターター本体のコネクター部に、ドライバー等の金属を接触させたり、異物を入れたりしないで下さい。内部でショートし発火する恐れがあります。また、取り付けの際は、CN3のコネクター面が下を向くように設置して下さい。

注意

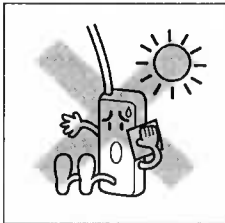


暖気運転を行った直後に運行前点検を行うと火傷をされる恐れがあります。ご注意ください。



ターボタイマー

他のエンジンスターターやターボタイマーとの併用は、絶対しないで下さい。故障や誤動作の原因となります。

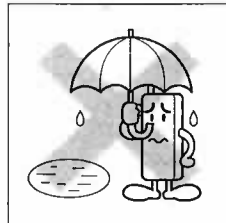


リモコンは、高温になる場所に放置しないで下さい。変形、変色や故障の原因となります。

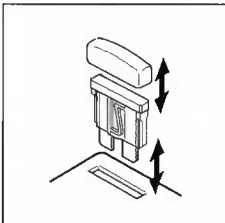
・リモコンでエンジン始動中は、エアコン（ヒーター）以外のスイッチはOFFにして下さい。リヤ熱線や大容量のオーディオ等を併用されますと、一部の車種ではハーネス接続部周辺が発熱し故障の原因となる恐れがあります。



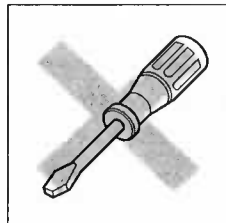
リモコンは落としたり、硬い物にぶつけないで下さい。また、アンテナは無理な力で引き伸ばしたり、収納したりしないで下さい。故障の原因となります。



本製品に水がかからないようにして下さい。リモコンは衣類のポケット等に入れたまま、洗濯しないように充分ご注意ください。故障の原因となります。



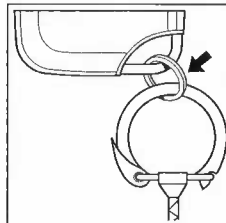
ヒューズ切れの直後はヒューズ部が高温となりますので、交換には注意して下さい。又、交換作業後はヒューズキャップを必ずつけて下さい。尚、一部車種については動作中、ヒューズ周辺の温度が上がる場合がありますのでご注意ください。



本製品の内部に異物を入れないで下さい。又、分解、改造は絶対しないで下さい。故障の原因となります。



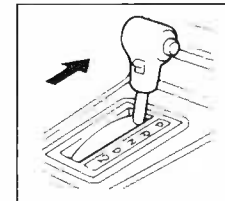
リモコンが汚れた場合は、薄めた中性洗剤をしみ込ませた布をよくしぼってふき、乾いた布でもう一度ふいて下さい。ベンジン、シンナー等は絶対に使用しないで下さい。変形、変色や事故の原因となります。



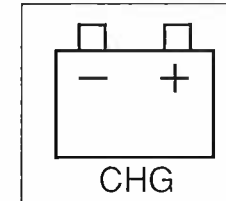
リモコンにキーホルダー等を取り付ける場合は、必ず付属のホルダーリングに取り付けて下さい。破損の原因となります。

使用上の注意

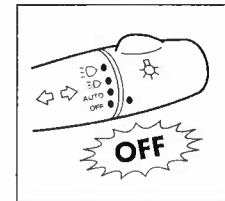
- 本製品は車両に対するいたずらや盗難に対して警告、警報を発するものであり盗難、車上ねらい等を防止するものではありません。本製品を取り付けたお車が万一盗難事故やいたずら等の被害に遭われても、当社は一切の責任を負いかねますのでご了承下さい。また、故障・誤動作等により警報機が使用出来なかったことによる付随的保証につきましても同様に、当社は一切の責任を負いかねますのでご了承下さい。
- 本製品は無線機等、強い電波やノイズを発生する機器のそばに設置した場合、誤動作あるいはリモコン操作が不可能となる可能性があります。
- 下記のような環境下で警報機を使用した場合は警報を発することがあります。
 1. 強風、豪雨、雷雨、台風等の気象条件の場合。
 2. 地震が起きた場合。
 3. 線路付近、幹線道路沿い、工事現場付近、飛行場付近等、振動の発生する場所。
- 警報機は、設置場所によって振動センサーの感度が大きく変わります。必ず動作確認をした上で取り付け位置を決定して下さい。また、動作確認の際はガラスやボディ等が破損しないように十分注意して下さい。万一破損等が発生しても、当社は一切の責任を負いかねますのでご了承下さい。
- ルームランプ点灯時のバッテリーの電圧変動が非常に小さい車両については、電圧バルスセンサーが感知出来ない場合があります。（例：残光ルームランプが付いている車両、キーレス操作によりルームランプが点灯する車両等。）
- エンジン停止時に他の電装品等の影響でバッテリー電圧が変動する車両については、電圧バルスセンサーがその電圧変動に反応してしまふ、使用出来ない場合があります。



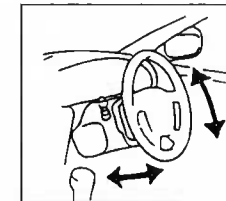
シフトレバーは必ずPレンジに入れて使用して下さい。Nレンジでは使用しないで下さい。パーキングブレーキは、必ずかけて下さい。



キーでエンジンを始動した後、充電警告灯が消えない車は、エンジンスターターを使用せずに車の点検整備をして下さい。

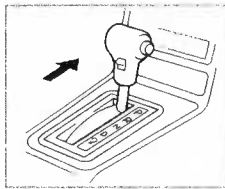


オートライト装着車に取り付けの場合、オート状態のまま夜間にリモコンにてエンジンを始動すると、車のライトが点灯してしまい、リモコン停止や自動停止後に消灯しません。そのためバッテリー上がりの原因となりますので、ライトスイッチはOFFの状態でご使用下さい。

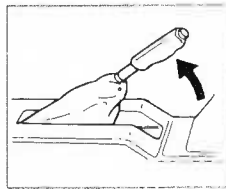


オートチルト及びマイコンブリセットステアリング装着車にお取り付けの場合、リモコンでのアイドリング中に、車のキーを差し込んでもステアリング機能は働きません。エンジンを止めて、再度キーを使ってエンジン始動を行って下さい。ドアスイッチ配線を行う事で、ドアを開けると同時にエンジンを停止させる事も出来ます。詳しくは31ページを参照して下さい。

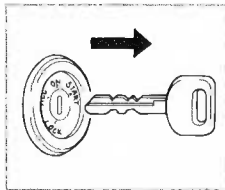
- リモコンドアロックあるいは、キーレスエントリー装着車では、エンジン駆動中（本機リモコンでのエンジン駆動中も含む）リモコンによるドアロック・アンロックの操作が出来なくなる車種があります。一度エンジンを止めるか、キーでドアを開けて下さい。「キーレスアダプター」（ミツバG-System別売）をお取り付け頂く事で、本機リモコンのACCスイッチでドアロック・アンロックが出来るようになります。（但し、一部の車種を除きます。必ず「EGSシリーズ対応車種一覧表」でご確認下さい。）
- リモコンを操作する時はアンテナを十分に伸ばして下さい。電波到達距離は、周囲の環境、室内アンテナの設置状態、リモコンの扱い方等によって変化します。一般的に建物内や周囲に鉄筋コンクリートの建築物があったり、高圧送電線や大出力の無線等のノイズ発生源があったりすると到達距離は短くなります。また、送信時にアンテナを収納したりリモコンを手等で覆うと短くなりますので、ご注意ください。
- 寒冷地では、エンジンがかかりにくいことがあります。キー操作のみで2.5秒以内にエンジンが始動するように車を整備して下さい。
- 警報機を動作させたまま7日間以上放置させないで下さい。バッテリー上がりの原因になります。
- キーによるアイドリング中は、一切のリモコン操作は出来ません。



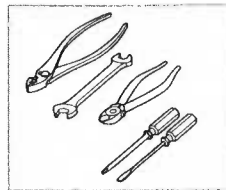
●シフトレバーは、必ずパーキングレンジに入れて下さい。



●パーキングブレーキは確実にかけて下さい。

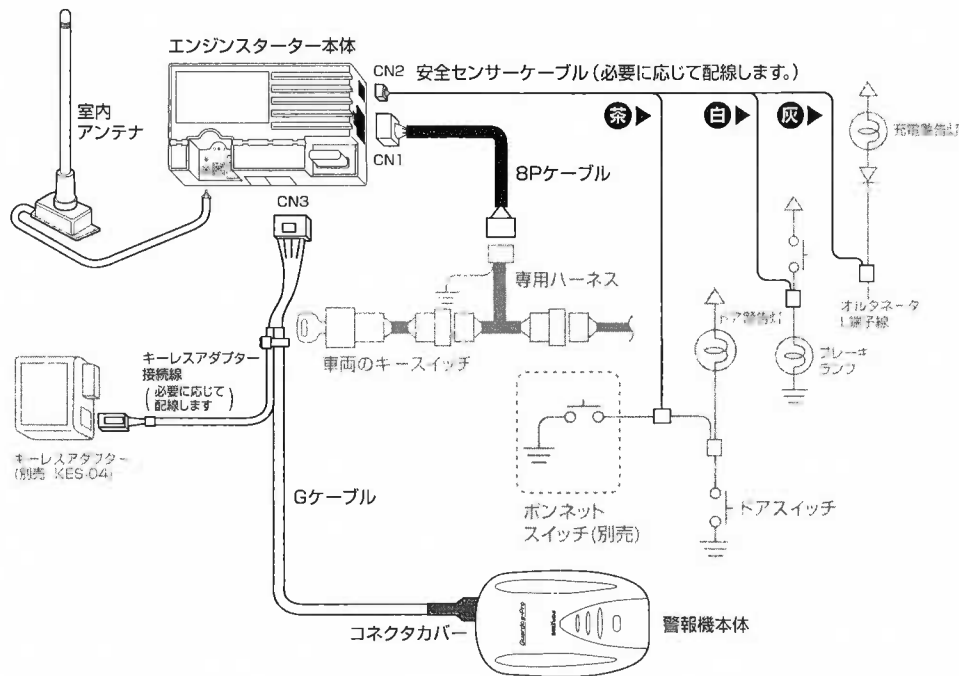


●車のキーは必ず抜いて下さい。



●取り付け工具について。
プラスチックドライバー・プライヤー・ニツパスパナテスター等。工具は本製品には同梱されていないので、別途ご用意下さい。

取り付け概念図



ステップ 7

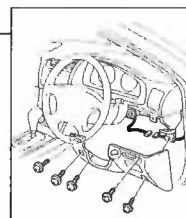
キースイッチの配線カブラを探します。

配線カブラの位置は大別すると次のようになります。詳しくは「EGSシリーズ適応車種一覧表」をご参照下さい。

メモ キースイッチの配線カブラは基本的に車種別専用ハーネスのカブラと同形状なので、それを目安にして下さい。

■タイプ1

●アンダーカバーを外し、キーシリンダーに直接接続されているか、もしくはキーシリンダー直近に位置しているタイプ。

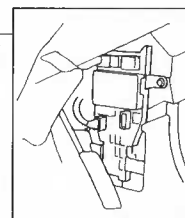


メモ

アンダーカバーを外す際、車種によってはスピーカーカバー内や、コインポケット等に隠しネジが付いている場合があります。

■タイプ3

●ヒューズボックスやジャンクションブロックに直接接続されているタイプ。

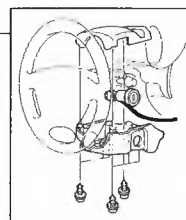


メモ

ホンダ車の場合、アクセルペダル横のヒューズボックス内に接続されている場合もあります。

■タイプ2

●ステアリングコラムカバーを外し、キーシリンダーに直接接続されているか、もしくはキーシリンダー直近に位置しているタイプ。

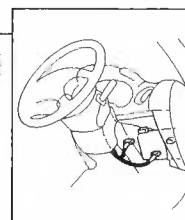


メモ

ステアリングコラムカバーを外す際、車種によってはステアリングを90度回転させないとネジが外せない場合があります。

■タイプ4

●配線カブラが2箇所に分かれているタイプ。それぞれの位置が離れているものもあります。

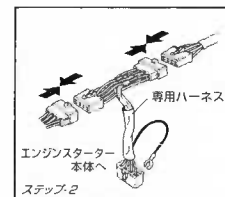


ステップ 2

専用ハーネスを接続します。

発見したキースイッチの配線カブラを一旦外します。車種別専用ハーネスを、外したカブラの間に割り込ませます。

注意 カブラの接続は振動で外れないように、最後まで確実に差し込んで下さい。エンジンスターター本体がうまく作動しない事があります。

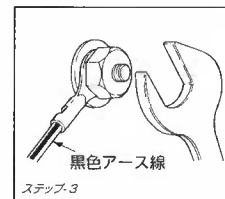


ステップ 3

アース線を接続します。

車種別専用ハーネスから出ている、黒色アース線を車体の金属部分に確実に締め付けます。これにより間接的にバッテリーのマイナスに接続されます。接続箇所を充分確認の上、適正な場所に接続して下さい。

注意 塗装されている金属部分や、車の振動等で緩んでしまう場所に取り付けないで下さい。動作が不安定となり、オートマチック車の登録情報が消去されたり、エンジンが始動しない等の不具合が生じます。



ステップ 4

エンジンスターター本体と専用ハーネスを接続します。

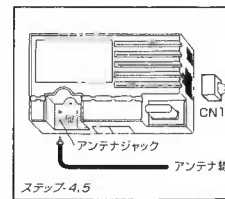
エンジンスターター本体のコネクター部(CN1)と専用ハーネス先端コネクター部を8Pケーブルで接続します。

ステップ 5

エンジンスターター本体と室内アンテナを接続します。

エンジンスターター本体のアンテナジャックへアンテナ線を差し込みます。

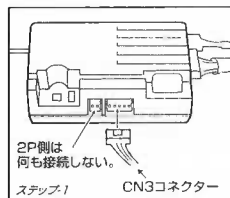
注意 アンテナ線は振動で外れないように、最後まで確実に差し込んで下さい。エンジンスターター本体がうまく作動しないことがあります。



ステップ 1 Gケーブルの白色5Pコネクタをエンジンスタート一本体のコネクタ部 (CN3) へ接続します。

※2Pコネクタは接続しません。

Gケーブルの白色2Pコネクタは他のアダプター (別売品) 接続用です。絶対にエンジンスタート本体には接続しないで下さい。故障の原因になります。



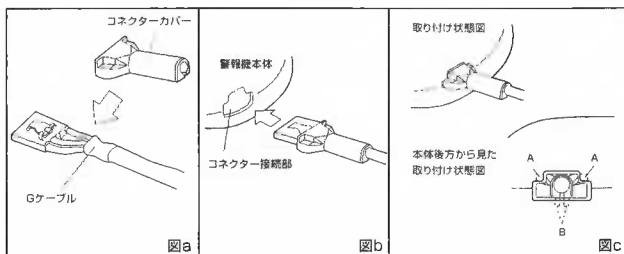
注意 エンジンスタート本体のケーブル接続端子部に、ドライバー等の金属を接触させたり、異物を入れたりしないで下さい。内部でショートし発火する恐れがあります。

ステップ 2 Gケーブルの黒色5Pコネクタを警報機本体へ接続します。

- (1) コネクタカバーの装着
 - ・Gケーブルの黒色5Pコネクタ部に図a、bのようにコネクタカバーを装着して下さい。
- (2) 警報機本体とハーネスの接続
 - ・警報機本体の後部にあるコネクタ接続部に図cのようにハーネスを接続して下さい。

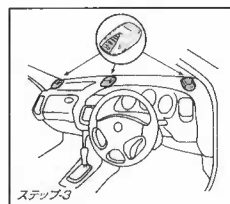


注意 コネクタカバーのA、B部は抜け防止ストッパーになっていますので、本体のコネクタ接続部の内側へ入り込むようにしっかりと差し込んでください。



ステップ 3 警報機本体を設置します。

警報機本体をフロントのダッシュボード上等に設置します。警報機本体の固定は、取り付け面の汚れや油分をよく落とし、付属の両面テープで確実に固定して下さい。



警告 エアバッグ装着車は、エアバッグカバー部には警報機本体を設置しないで下さい。エアバッグ作動時にケガをする恐れがあります。



- ・設置する場所は、運転に差し支えない場所を選んで下さい。
- ・警報機本体がしっかりと固定されていないと振動が伝わりにくくなるため、振動センサーが十分に感知しなくなる恐れがあります。また、カーペット・モケット等やわらかい部分への設置は振動センサーの感度を悪くさせますのでお止め下さい。
- ・無線機等、強い電波やノイズを発生する機器と同時使用した場合、誤動作する恐れがあります。
- ・警報機本体は防水構造になっていないため、水がかからない場所に設置して下さい。
- ・エアコンの吹き出し口は高温になり、また結露の原因にもなりますので、この付近への設置はお止め下さい。

OK! 以上で基本的な取り付け作業は終了です。

次に必ず「オートマチック車の登録」をして下さい。

M/T車への取り付け防止のためのA/T車判別機能を搭載しています。(取り付け時にA/T車の認識作業を行いますので、M/T車にはお取り付け出来ません。)登録作業中はエンジンを始動させないで下さい。誤って始動させた場合、ステップ1からやり直して下さい。

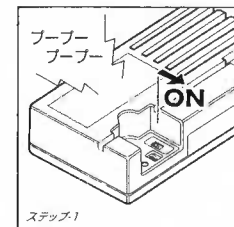
ステップ 1

エンジンスタート本体のパワースイッチをONにします。

この時、エンジンスタート本体から、「ブーブー ブーブー…」と断続音が鳴り続けます。



ブザーが鳴らない場合は、アースが確実に取れているか、また車種別専用ハーネスの品番が間違っていないか、再確認して下さい。



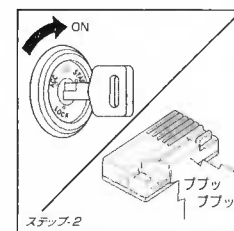
ステップ 2

キーをONの位置にします。

この時、エンジンスタート本体からの断続音が、「ブブッ ブブッ…」の2連音へと変化します。



この時、誤ってエンジンを始動させないで下さい。もし始動させた場合、ステップ1からやり直して下さい。



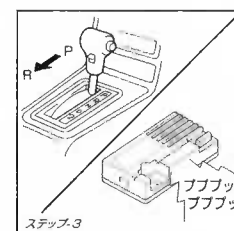
ステップ 3

シフトレバーをPレンジからRレンジへと動かします。

エンジンスタート本体からの断続音が、「ブブッ ブブッ…」の3連音へと変化します。



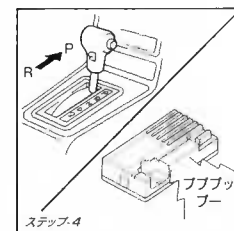
- ・シフト操作は、ブレーキを踏んでゆっくり操作して下さい。
- ・断続音に変化する事を必ず確認して下さい。断続音に変化しない場合は一度作業を中断し、専用ハーネス付属の「専用ハーネス接続時の注意事項」を確認して下さい。(追加配線を行う必要があります。)なお、追加配線後はステップ1からやり直して下さい。



ステップ 4

シフトレバーをRレンジからPレンジへと戻します。

この時、エンジンスタート本体から「ブブッ ブー」と音が鳴り、オートマチック車の登録が終わった事を知らせて鳴り止みます。



ステップ 5

キーをOFFにします。



以上でオートマチック車の登録は終了です。

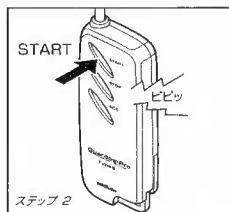


車のバッテリーを外したり車種別専用ハーネス (アース線) を外すとオートマチック車の登録情報が消去されます。この場合には再度オートマチック車の登録を行って下さい。

ステップ 1 エンジンスターターの動作確認の前に、必ず車を下記の状態にして下さい。

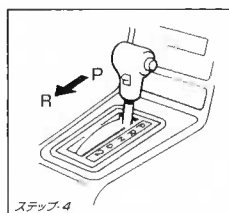
警告 周囲の安全を確認の上、パーキングブレーキをしっかりとかけて下さい。シフトレバーは、必ずPレンジにして下さい。重大な事故につながる恐れがあります。

ステップ 2 リモコンのSTARTスイッチを押します。
リモコンのロッドアンテナを最後まで引き出して、送信音「ビビッ」が鳴るまでSTARTスイッチを押し続けます。



ステップ 3 エンジンが始動します。
エンジンスターター本体が信号を受信すると、数秒後にスターターが回りエンジンが始動します。エンジン始動後は、エンジンスターター本体から警告音「ブツ」が数秒間隔で鳴り続けます。一度で始動しない場合は、その後2回のリトライ(再始動)動作を行います。

ステップ 4 シフトセンサーの確認をします。
リモコンでエンジンが始動した後、キーを差さずにフットブレーキをしっかりと踏みながら、シフトレバーをゆっくりとPレンジからRレンジへと動かします。この時エンジンが止まる事を確認します。



メモ 車種によっては、キーを差さないとシフトレバーが動かせないものもあります。その場合は、キーをACCの位置まで回して確認して下さい。

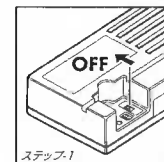
OK! 以上でエンジンスターターの動作確認は終了です。
正常に動作した場合は、17～18ページ「警報機の動作確認」を行って下さい。また、正常に動作しない場合は、下表を参考に対処して下さい。

エラー発生時のQ&A

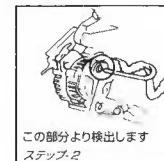
Q (症状)	A (対処方法)
● エンジンは始動しているのに数秒で停止してしまい、自動的に再始動(リトライ)が行われてしまうのですが…?	▶ エンジンの自動始動検出が、うまく行われていないと考えられます。詳しくは、13ページの「L端子検出方式への変更」を参照して下さい。
● エンジンは始動していないのにメーターパネルが点灯したままになってしまうのですが…?	▶ 一部のディーゼル車等でグロー(予熱)時間が足りない事が考えられます。詳しくは、14ページの「始動パターンの切替」(グロー設定・解除)を参照して下さい。
● 寒冷時に始動がうまく行われないのですが…?	▶ スターターモーターの駆動時間を学習させることが出来ます。詳しくは、15ページの「キー始動学習機能の設定」を参照して下さい。
● スターターモーターの駆動時間が短いため、1回目のスターター駆動でエンジンがからず、リトライしてしまうのですが…?	▶ キー始動学習を行う事で警告灯が消灯ようになります。詳しくは、15ページの「キー始動学習機能の設定」を参照して下さい。
● リモコン操作による始動後にABS警告灯が消灯しないのですが…?	▶ オートマチックシフトの検出がうまく行われていないと考えられます。詳しくは、16ページの「フットブレーキ検出方式への変更」を参照して下さい。
● リモコン操作によるエンジン始動後、シフトレバーをPレンジからRレンジへと動かしてもエンジンが停止しないのですが…?	

L端子検出方式への変更

ステップ 1 エンジンスターター本体のパワースイッチを切ります。
既に付属の安全センサーケーブルがエンジンスターター本体に接続されている場合は、一旦外してから作業を行って下さい。

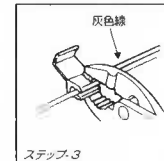


ステップ 2 車のオルタネーターから出ているL端子線を探します。
L端子線とは、イグニッションONの位置でエンジンが停止している時、約1～3V、エンジンが駆動している時、約12～14Vになる線です。(必ずテスターをご使用下さい。)

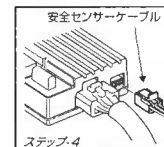


ステップ 3 安全センサーケーブルの灰色線を接続します。
安全センサーケーブルの灰色線をグロメット等を利用して、車室内からエンジンルームに引き込み、オルタネーターから出ているL端子線に接続します。(付属のエレクトロタップ使用。)

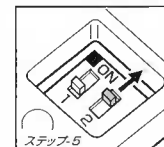
注意 接触不良が起きないように確実に取り付けて下さい。なお、エレクトロタップは防水のためテーピングして下さい。灰色線がボディの金属部分に触れると、ショートを起こし車両故障の原因となる恐れがあります。



ステップ 4 安全センサーケーブルをエンジンスターター本体のコネクター部(CN2)に接続します。



ステップ 5 エンジンスターター本体のモードスイッチ2をONにします。
スイッチが小さいため、ボールペンの先端等で行って下さい。

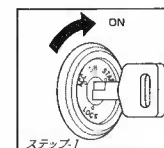


OK! 以上でL端子配線は終了です。
パワースイッチをONにしてリモコンで問題なくエンジン始動出来る事を確認して下さい。なお、接続したL端子が正しいか否かを、本体の「CHGランプ」の点灯状態で確認する事が出来ます。チェック方法は、下記「L端子誤配線チェック機能」に習って行って下さい。

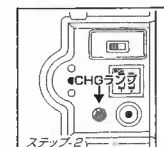
L端子誤配線チェック機能

以下のチェック方法は、モードスイッチ2がONのときのみ行う事が出来ます。

ステップ 1 キーをONの位置にします。
この時、エンジンスターター本体の「CHGランプ」が点灯する事を確認します。「CHGランプ」が点灯しない場合、L端子配線の接続先の間違いや接触不良が考えられます。配線先を見直して下さい。



ステップ 2 上記操作後30秒以内にキー操作でエンジンを始動します。
エンジンが始動すると同時に「CHGランプ」が消灯すれば、L端子配線の接続先は正しく配線されています。「CHGランプ」が消灯しない場合、L端子配線の接続先が間違っていると考えられますので配線先を見直して下さい。なお、30秒以内に操作が完了しないと、確認は出来ません。(エンジンスターター本体から「ビービー」という警告音がします。)キーをOFFに戻し、ステップ1からやり直して下さい。



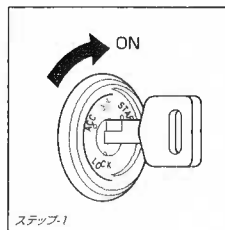
OK! 以上でL端子誤配線チェックは終了です。

始動パターンの切替(グロー設定・解除)

一部のディーゼル車等で、グロー(予熱時間)が必要な場合、以下の操作をする事によりグローを設定する事が出来ます。グローは6秒です。お取り付け時はグロー設定が解除されています。

ステップ1 キーをONの位置にします。

この時、誤ってエンジンを始動させないで下さい。以降の操作が出来ません。

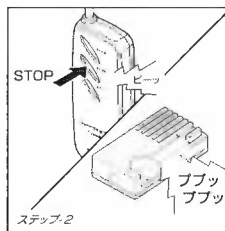


ステップ1

ステップ2 10秒以内にリモコンのSTOPスイッチを押します。

エンジンスターター本体から断続音「ブブッ ブブッ…」の2連音が鳴ります。

- メモ**
- ・10秒以内に操作が完了しない場合は設定出来ません。キーをOFFに戻し、ステップ1からやり直して下さい。
 - ・リモコンのスイッチは反応音があったら離して下さい。押し続けると、2~3秒後に再度ストップ信号が送信され、ターボタイマーの設定が解除となります。また、以降の操作が出来なくなります。



ステップ2

ステップ3 30秒以内に次の操作を行います。

リモコンのSTOPスイッチを押してから30秒以上経過してしまった場合は、エンジンスターター本体から「ビービー」という警告音がして、その後の操作が無効になります。キーをOFFに戻しステップ1からやり直して下さい。

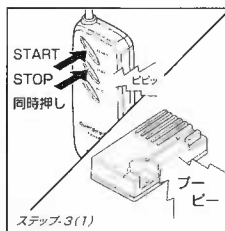
(1)グロー(予熱時間)を設定する場合。リモコンのSTARTスイッチとSTOPスイッチを同時に押します。

エンジンスターター本体から「ブービー」という音がして、グローが設定されたことを知らせ、鳴り止みます。

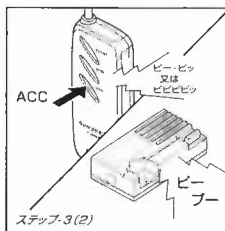
(2)グロー(予熱時間)を解除する場合。リモコンのACCスイッチを押します。

エンジンスターター本体から「ビービー」という音がして、グローの設定が解除されたことを知らせ、鳴り止みます。

- メモ** リモコンのACCスイッチは押す毎に、「ビー・ビッ」と「ビビビビッ」音が交互に鳴りますが、設定には支障ありません。



ステップ3(1)



ステップ3(2)

ステップ4 キーをOFFにします。

OK! 以上で始動パターンの切替は終了です。

- メモ** 車のバッテリーを外したり車種別専用ハーネス(アース線)を外した場合には、再度設定する必要があります。

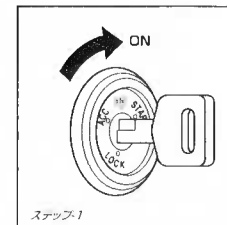
キー始動学習機能の設定

次の様な場合には、キー始動学習機能を設定して下さい。(エンジン停止状態から始めて下さい。)

- リモコン始動時にABS警告灯が点灯したままとなってしまう。
- スターターモーター駆動時間が短かすぎてエンジンがかかりにくい。

ステップ1 キーをONの位置にします。

この時、誤ってエンジンを始動させないで下さい。以降の操作が出来ません。

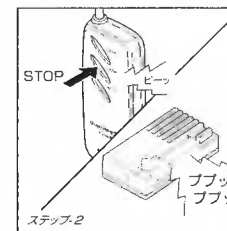


ステップ1

ステップ2 10秒以内にリモコンのSTOPスイッチを押します。

エンジンスターター本体から断続音「ブブッ ブブッ…」の2連音が鳴ります。

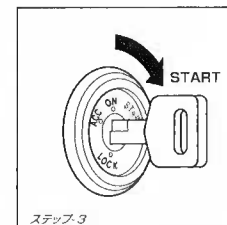
- メモ**
- ・10秒以内に操作が完了しない場合は設定出来ません。キーをOFFに戻し、ステップ1からやり直して下さい。
 - ・リモコンのスイッチは反応音があったら離して下さい。押し続けると、2~3秒後に再度ストップ信号が送信され、ターボタイマーの設定が解除となります。また、以降の操作が出来なくなります。



ステップ2

ステップ3 30秒以内にキー操作でエンジンを始動します。

エンジンスターター本体から「ブブブブブ」と音が鳴りキー始動学習が行われた事を知らせ、鳴り止みます。この時にスターターモーター駆動時間を「0.8~2.5秒」の範囲で学習し、以降リモコン始動時のスターターモーター駆動時間になります。よって、通常使用時と同一環境下で学習操作を行うと効果的です。30秒以内に操作が完了しない場合は設定出来ません。(エンジンスターター本体から「ビービー」という警告音がします。)キーをOFFに戻し、ステップ1からやり直して下さい。



ステップ3

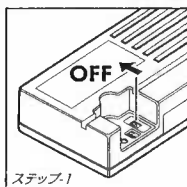
ステップ4 キーをOFFにします。

OK! 以上でキー始動学習機能の設定は終了です。

- メモ** 車のバッテリーを外したり車種別専用ハーネス(アース線)を外した場合には、再度設定する必要があります。

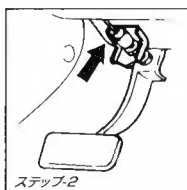
フットブレーキ検出方式への変更

ステップ1 エンジンスターター本体のパワースイッチを切ります。
既に付属の安全センサーケーブルがエンジンスターター本体に接続されている場合は、一旦外してから作業を行ってください。



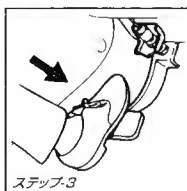
ステップ1

ステップ2 車のフットブレーキスイッチを探します。
フットブレーキスイッチはブレーキペダルの根元付近にあります。
メモ フットブレーキとは、フット式パーキングブレーキの事ではありません。



ステップ2

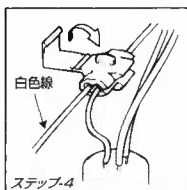
ステップ3 ブレーキペダルを踏んだとき12Vになる線を見つけます。
フットブレーキスイッチから出ている線の内、ブレーキペダルを踏まない時は0V、踏んだときに12Vになる線を見つけて下さい。(必ずテスターをご使用下さい。)



ステップ3

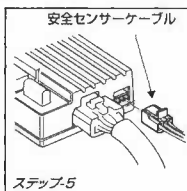
ステップ4 安全センサーケーブルの白色線を接続します。
安全センサーケーブルの白色線を、ステップ3で見つけた線に接続します。(付属のエレクトロタップ使用。)

注意 接触不良が起きない様に確実に取り付けて下さい。
フットブレーキ検出がうまく行われない場合があります。
なお、エレクトロタップ部は、防水のためテーピングして下さい。



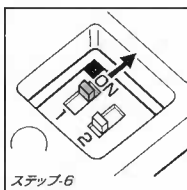
ステップ4

ステップ5 安全センサーケーブルをエンジンスターター本体のコンネクター部(CN2)に接続します。



ステップ5

ステップ6 エンジンスターター本体のモードスイッチ1をONにします。



ステップ6

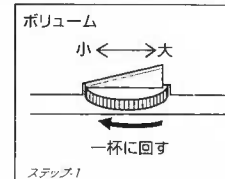
OK! 以上でフットブレーキ配線は終了です。
パワースイッチをONにしてリモコンでエンジンを始動させ、フットブレーキを踏んだ時にエンジンが停止する事を確認して下さい。

電圧パルスセンサーの動作確認

車両のルームランプ点灯を電圧パルスセンサーが感知し、連続警報(約26秒)するかどうか確認します。

ステップ1 ルームランプスイッチをドア連動位置にして警報機本体の感度調整ボリュームを最小にします。

メモ ルームランプスイッチのドア連動位置とは、ドアを開けると点灯し、閉めた時に消灯する位置です。

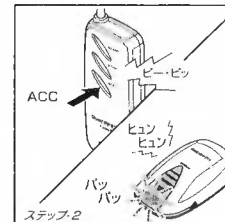


ステップ1

ステップ2 車を降りてドアを閉め、ルームランプの消灯を確認してから、リモコンのACCスイッチで警報機をセットします。

23ページ「警報機をセットする」の順にしたがって、警報機をセットします。この時、警報機が「セット確認表示」→「スタンバイモード」→「監視モード」と正常に移行するか確認して下さい。

注意 ドアを開める際に取り付け作業中の部品等をドアに挟まないよう注意して下さい



ステップ2

ステップ3 警報機が監視モードに変わったならドアを開けます。

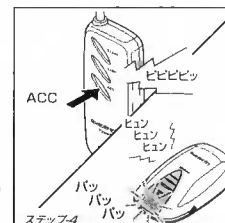
この時、ルームランプ点灯と同時に警報機が警報することを確認して下さい。この時、警報機は約26秒間警報をします。(警報は自動的に停止します。)



ステップ3

ステップ4 ルームランプ点灯に対して正常に警報することを確認したら警報機をリセットします。

25ページ「警報機をリセットする」の順にしたがって、警報機をリセットします。この時、警報機が正常にリセット確認表示【音「ヒュンヒュンヒュン」、セキュリティインジケータ3回点滅】することを確認して下さい。



ステップ4

OK! 以上で警報機の電圧パルスセンサーの動作確認は終了です。
正常に動作しない場合は、下表を参考に対処して下さい。

エラー発生時のQ&A

Q (症状)	A (対処方法)
● ルームランプを点灯させていないのに警報してしまうのですが…?	▶ 他の電装品の影響でバッテリー電圧が変動していると考えられます。電圧パルスセンサーをOFFにして下さい。(この時電圧パルスセンサーを使用する事は出来ません。) →19~20ページ「電圧パルスセンサーON/OFF切替方法」参照
● ドアを開けてルームランプ点灯させても連続警報しないのですが…?	▶ ルームランプ点灯時のバッテリー電圧変動が非常に小さいため、センサーが電圧変動を感知できないと考えられます。この場合は、電圧パルスセンサーを使用することは出来ません。 ▶ 一旦セットしてから60分以内に3回電圧パルスセンサーによる警報を行った場合、以後60分間は電圧パルスセンサーによる警報は行われません。 →27ページ「誤動作軽減機能について」参照
● エンジン停止直後に警報機をセットしたら、ルームランプを点灯させてもいないのに、警報してしまうのですが…?	▶ 他の電装品の影響により、エンジン停止後しばらくバッテリー電圧が安定しないためと考えられます。この場合は、スタンバイモード時間を「5秒」から「30秒」へ変更してみてください。 →20~21ページ「スタンバイモード時間の切替方法」参照 なお、スタンバイモードを30秒へ変更しても改善しない場合は、電圧パルスセンサーをOFFにして下さい。(この時電圧パルスセンサーを使用する事は出来ません。) →19~20ページ「電圧パルスセンサーON/OFF切替方法」参照

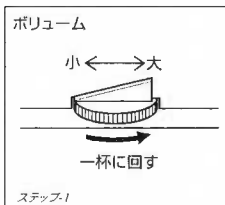
振動センサーの動作確認

車両に与えられた振動を振動センサーが感知し、警報するかどうかを確認します。この時、軽い振動に対しては威嚇警報(約1秒)にて警報し、強い振動に対しては連続警報(約26秒)にて警報します。

ステップ1 警報機本体側面の感度調整ボリュームを最大にします。
メモ 感度調整ボリュームは、大振動の感度調整用です。小振動の感度調整は出来ません。

ステップ2 車を降りてドアを開けてから、リモコンのACCスイッチで警報機をセットします。

注意 ドアを閉める際に取り付け作業中の部品等をドアに挟まないように注意して下さい。



ステップ1

ステップ3 警報機が監視モードに変わったら、車体に振動を与えて振動センサーが感知するかどうか確認します。

軽い振動に対しては威嚇警報(約1秒)、強い振動に対しては連続警報(約26秒)にて警報することを確認して下さい。



注意 動作確認の際に車へ振動を与える場合、強く叩きすぎてケガをすることのないようお気を付け下さい。また、ガラスやボディ等が破損しないように十分注意して下さい。万一破損等が発生しても、当社では一切の責任を負いかねますのでご了承下さい。



ステップ3

ステップ4 車体に与えた振動に対して正常に警報することを確認したら警報機をリセットします。

25ページ「警報機をリセットする」の手順にしたがって、警報機をリセットします。この時、警報機が正常にリセット確認表示(音「ヒュンヒュン」、セキュリティインジケータ2回点滅)することを確認して下さい。



ステップ3

OK! 以上で警報機の振動センサーの動作確認は終了です。

正常に動作しない場合は、下表を参考に対処して下さい。

エラー発生時のQ&A

Q (症状)	A (対処方法)
●軽い振動を与えても、連続警報してしまうのですが…?	▶ 警報機本体側面の感度調整ボリュームを回して感度を調整して下さい。
●車体に振動を与えていないのに、威嚇警報してしまうのですが…?	▶ 警報機本体がしっかりと固定されているか確認して下さい。また、幹線道路沿い、工事現場、工場付近、飛行場付近等に車を停車した場合、または台風、豪雨等の気象条件下では警報を発する場合があります。
●感度が悪いのですが…?	▶ 振動センサーの感度は警報機本体の設置場所や車両のボディ剛性に大きく影響されます。反応させたい振動に対して振動センサーが感知しない場合は、警報機本体の設置場所を変えてみて下さい。また、一旦セットしてから60分以内に3回振動センサーが強い振動を感知して連続警報を行った場合、以後60分間は強い振動を感知しても連続警報は行わず、威嚇警報にて警報します。 →27ページ「誤動作軽減機能について」参照

電圧パルスセンサーのON/OFF切替方法

エンジン停止時に他の電装品等の影響でバッテリー電圧が変動する車両については電圧パルスセンサーがその電圧変動を感知してしまう場合があります。このような場合は、電圧パルスセンサーをOFFにして下さい。(このとき電圧パルスセンサーは使用出来ません。)

ステップ1 警報機本体上面のモード切替ボタンをセキュリティインジケータが点灯するまで長押しします。(約1秒)
 この時警報機本体は、電圧パルスセンサー ON/OFF切替受付モードとなり、セキュリティインジケータは連続点灯となります。



ステップ1

ステップ2 セキュリティインジケータが連続点灯の状態、モード切替ボタンを1回チョン押しします。
 この時セキュリティインジケータは1秒に1回の点滅を始めます。



ステップ2

メモ セキュリティインジケータの1回/秒の点滅は、電圧パルスセンサーがON設定されていることを表しています。お取り付け時(初期状態)はON設定になっています。

Point! セキュリティインジケータが1秒に1回の点滅ではなく速い点滅を始めたら…

モード切替ボタンをチョン押しではなく長押ししてしまうと、「スタンバイモード時間切替モード」になってしまいます。もし、セキュリティインジケータが1秒に1回の点滅ではなく速い点滅を始めたら、モード切替ボタンを連続で2回チョン押しして下さい。セキュリティインジケータは消灯し、設定操作を行う前の状態に戻ります。その後、改めてステップ1からやり直して下さい。

ステップ3 セキュリティインジケータが1秒に1回の点滅を確認した上で、もう一度モード切替ボタンをチョン押しします。



ステップ3

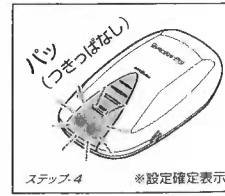
この時、セキュリティインジケータは1秒に2回の点滅を始めます。

メモ セキュリティインジケータの2回/秒の点滅は、電圧パルスセンサーがOFF設定されていることを表しています。

Point! セキュリティインジケータの点滅パターンで電圧パルスセンサーの設定モードが確認出来ます。

モード切替ボタンをチョン押しする毎に電圧パルスセンサーの設定は、ON・OFF…と順に切替わります。ON、OFFのどちらになっているかはセキュリティインジケータの点滅パターンで確認して下さい。
 ・1秒に1回の点滅をしているとき「ON」
 ・1秒に2回の点滅をしているとき「OFF」

ステップ4 ON/OFFの設定が決まったら、モード切替ボタンをセキュリティインジケータが連続点灯に変わるまで長押しします。(約1秒)



ステップ4

メモ セキュリティインジケータが連続点灯に変わった時点で電圧パルスセンサーの設定が決定されます。

ステップ5 セキュリティインジケータが連続点灯の状態、モード切替ボタンを1回チョン押しします。
この時セキュリティインジケータは消灯します。

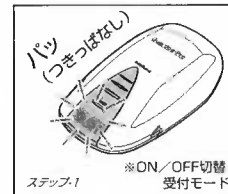
OK! 以上で電圧パルスセンサーのON/OFF設定は終了です。

注意 車種別専用ハーネスや車両のバッテリーを外したり、警報機とエンジンスターター本体との接続を外すと、電圧パルスセンサーの設定はON設定に戻ります。OFF設定でご使用の場合は、再度切替え操作を行って下さい。

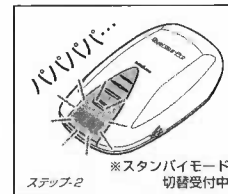
スタンバイモード時間の切替方法

エンジン停止直後に電圧が安定しないために、エンジン停止直後に警報機をセットすると電圧パルスセンサーが反応してしまう車両があります。このような場合は、スタンバイモード時間を30秒へ切替えて下さい。(スタンバイモード時間を30秒へ変更しても改善しない場合は、電圧パルスセンサーをOFFにして下さい。このとき電圧パルスセンサーを使用することは出来ません。)

ステップ1 警報機本体上面のモード切替ボタンをセキュリティインジケータが点灯するまで長押しします。(約1秒)
この時警報機本体は、電圧パルスセンサー ON/OFF切替受付モードとなり、セキュリティインジケータは連続点灯となります。



ステップ2 もう一度、モード切替ボタンをセキュリティインジケータが連続点灯から速い点滅に変わるまで長押しします。(約1秒)
この時警報機本体は、スタンバイモード時間切替受付モードとなり、セキュリティインジケータは速い点滅を続けます。

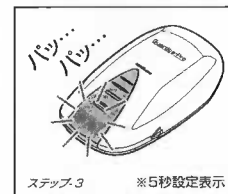


Point! セキュリティインジケータが速い点滅ではなく1秒に1回の点滅を始めたら...

モード切替ボタンを長押しではなくチョン押ししてしまうと、電圧パルスセンサー ON設定表示になってしまいます。もし、セキュリティインジケータが速い点滅ではなく1秒に1回の点滅を始めたら、モード切替ボタンを連続で2回チョン押しして下さい。セキュリティインジケータは消灯し、設定操作を行う前の状態に戻ります。その後、改めてステップ1からやり直して下さい。

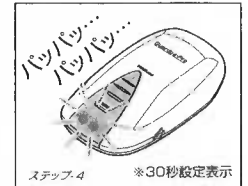
ステップ3 セキュリティインジケータが速い点滅をしている状態で、モード切替ボタンを1回チョン押しします。
この時セキュリティインジケータは、1秒に1回の点滅を始めます。

メモ セキュリティインジケータの1回/秒の点滅は、スタンバイモード時間が5秒に設定されていることを表しています。お取り付け時(初期状態)は5秒設定になっています。



ステップ4 セキュリティインジケータが1秒に1回の点滅を確認した上で、もう一度モード切替ボタンをチョン押しします。

メモ この時、セキュリティインジケータは1秒に2回の点滅を始めます。セキュリティインジケータの2回/秒の点滅は、スタンバイモード時間が30秒に設定されていることを表しています。

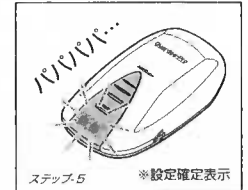


Point! セキュリティインジケータの点滅パターンでスタンバイモード時間の設定モードが確認出来ます。

モード切替ボタンをチョン押しする毎にスタンバイモード時間の設定は、5秒→30秒→5秒...と順に切替わります。5秒、30秒のどちらになっているかはセキュリティインジケータの点滅パターンで確認して下さい。
・1秒に1回の点滅をしているとき→「5秒」
・1秒に2回の点滅をしているとき→「30秒」

ステップ5 5秒/30秒の設定を決めたら、モード切替ボタンをセキュリティインジケータが速い点滅に変わるまで長押しします。(約1秒)

メモ セキュリティインジケータが速い点滅に変わった時点でスタンバイモード時間の設定が決定されます。



ステップ6 セキュリティインジケータが速い点滅をしている状態で、モード切替ボタンを1回チョン押しします。

この時セキュリティインジケータは消灯します。

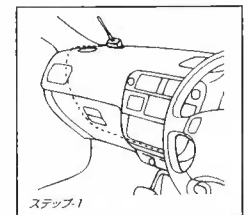
OK! 以上でスタンバイモード時間の時間設定は終了です。

注意 車種別専用ハーネスや車両のバッテリーを外したり、警報機とエンジンスターター本体との接続を外すと、スタンバイモード時間の設定は5秒に戻ります。30秒設定でご使用の場合は、再度切替え操作を行って下さい。

室内アンテナの取り付け

ステップ1 室内アンテナを設置します。

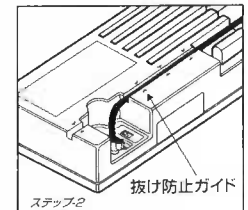
ダッシュボードのサイドビラーから10cm以上離し、出来るだけフロントガラスに近い平らな場所に設置して下さい。



警告

室内アンテナは、運転の妨げにならない場所に設置して下さい。アンテナを手前寄りに取り付けた場合、急ブレーキ等によりアンテナに顔をぶつけてケガをする恐れがあります。ガラス面に近い場所にしっかりと固定して下さい。エアバック装着車には、エアバックカバー部へ固定しないで下さい。エアバック作動時にケガをする恐れがあります。

ステップ2 エンジンスターター本体の抜け防止ガイドに室内アンテナのケーブル線を固定して下さい。



未使用端子の処理、エンジンスターター本体の取り付け

ステップ1 未使用端子の絶縁処理をします。

〔Gケーブル〕

●キーレスアダプター（別売KES-04）を接続しない場合は、キーレスアダプター接続用2Pコネクタをビニールテープ等で絶縁処理して下さい。

〔安全センサーケーブル〕

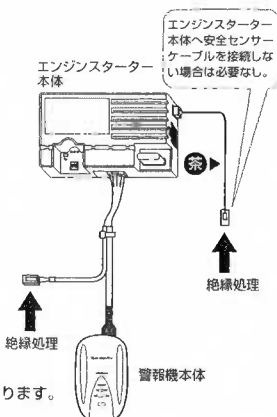
●安全センサーケーブルのドアスイッチ配線を行わなかった場合は、ドアスイッチ配線に付いているギボシ端子をビニールテープ等で絶縁処理して下さい。

メモ

安全センサーケーブルのドアスイッチ配線を行うことにより、リモコンでのアイドル中にドアを開けると、エンジンを停止させることが出来ます。
→31ページ「運転席ドアスイッチ配線を行う場合」参照

注意

絶縁処理は確実に行って下さい。ショートして誤動作、故障の原因となります。



ステップ2 配線したケーブル類を整理します。

これまでに配線したケーブル類をビニールテープや付属の結束バンド等で確実に固定して下さい。

警告

配線類が挟み込まれたりすると、断線やショートの原因となり、製品や車の故障、さらには車両火災を起こす可能性があります。
ステアリングシャフトやブレーキペダルの可動部付近には固定しないで下さい。運転の妨げになり事故の原因となります。

ステップ3 エンジンスターター本体を設置します。

エンジンスターター本体を運転操作の邪魔にならない場所に、付属の結束バンド等を使用して設置します。

警告

●エンジンスターター本体は、直射日光の当たる場所、エアコンの吹き出し口等の高温になる場所や足下の水の跳ね返りや外部からの水に触れる場所には設置しないで下さい。故障の原因となります。
●ステアリングシャフトやブレーキペダルの可動部付近には設置しないようにして下さい。エンジンスターター本体が干渉した場合、運転操作の妨げになり、事故の原因となります。

ステップ4 外したアンダーカバー等を元に戻します。

コーションラベルの貼り付け

エンジンルーム内の目立つ場所に貼って下さい。貼り付ける部位の汚れや油分等をきれいに除去して下さい。

危険

ボンネットを開けて作業している際に、誤って始動操作が行われると大変危険です。必ず目立つ場所に貼って下さい。

「設定内容確認表」への記入

39ページ「設定内容確認表」へ使用した車種別専用ハーネスの品番、各種設定状態について記入して下さい。

OK! 以上で取り付けは終了です。

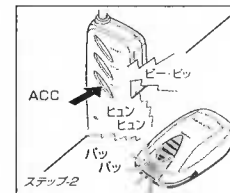
ステップ1 車を降りて、ドアをロックします。

ステップ2 リモコンで警報機をセットします。

リモコンのACCスイッチをセット音「ビー・ピッ」が鳴るまで押し、警報機をセットします。セット送信が正常に行われると、警報機はセット確認表示として、「ヒュンヒュン」と鳴りセキュリティインジケータが2回点滅します。

メモ

・リモコンのACCスイッチは押す毎にセット信号とリセット信号を交互に発信します。スイッチを押した時にリセット信号【音「ビビビビッ」】が発信された場合は、もう一度押して下さい。

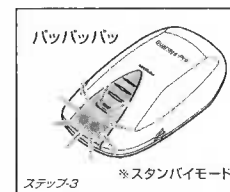


ステップ3 警報機が正常にセットされると、自動的に約5秒間のスタンバイモードへ移行します。

スタンバイモードの間、セキュリティインジケータは速い点滅（0.5秒に1回点滅）をします。

メモ

スタンバイモードの時、振動センサーと電圧パルスセンサーは機能しません。

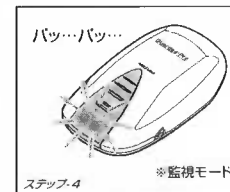


ステップ4 スタンバイモードが終了すると、自動的に監視モードへ移行します。

監視モードへ移行すると、セキュリティインジケータは遅い点滅（3秒に1回点滅）にて威嚇します。

監視モード中、振動、ドア開（ルームランプ点灯）を検知すると、2つの警報モードにより、セキュリティインジケータとブザーで警報します。

→37ページ「主な動作仕様一覧」参照。



エンジンスターター本体にてターボタイマー設定(→29~30ページ「ターボタイマー機能について」参照)を行った場合、警報機のセット操作については、下記の手順でお使い下さい。

ステップ 1 エンジン停止後、車をおりてドアをロックします。

キーを「OFF」にすると、エンジンスターター本体から「ブブブブ」とカウントダウン音が出てターボタイマーが作動を開始します。

ステップ 2 ターボタイマー作動中に警報機をセットします。

リモコンのACCスイッチをセット音「ビー・ピッ」が鳴るまで押して、警報機をセットします。正常にセットされると、警報機は確認表示をします。(エンジン停止時にセットしたときと同様です。)

ステップ 3 警報機がセットされると、自動的にスタンバイモードへ移行します。

アイドリング中は、スタンバイモードを継続します。

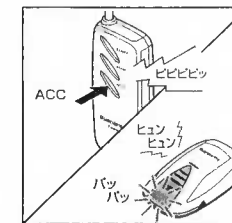
ステップ 4 エンジン停止してから約5秒後、スタンバイモードから監視モードへ自動的に移行します。

Point! 監視モード移行後、勝手に警報してしまったら…

お車によっては、他の電装品等の影響により、エンジン停止後もしばらくバッテリー電圧が安定しない場合があります。その場合は、スタンバイモード時間を5秒→30秒へ変更してみてください。
→20~21ページ「スタンバイモード時間の切替方法」参照
尚、スタンバイモードを30秒へ変更しても改善しない場合は、電圧パルスセンサーをOFFにしてください。
(この時電圧パルスセンサーを使用することはできません。)
→19~20ページ「電圧パルスセンサーのON/OFF切替方法」参照

ステップ 1 リモコンで警報機をリセットします。

リモコンのACCスイッチをリセット音「ビビビッ」が鳴るまで押して、警報機をリセットします。リセット送信が正常に行われると、警報機はブザーとセキュリティインジケータでリセット確認表示をします。



メモ

- ・リモコンのACCスイッチを押す毎にセット信号とリセット信号を交互に発信します。スイッチを押した時にセット信号【音「ビー・ピッ」】が発信された場合は、もう一度押して下さい。
- ・リセット時、セキュリティインジケータの点滅回数とブザー音により、監視中に警報したかどうか、あるいはどんな事象を感知して警報したかをお知らせします。→27ページ「警報履歴確認機能について」参照

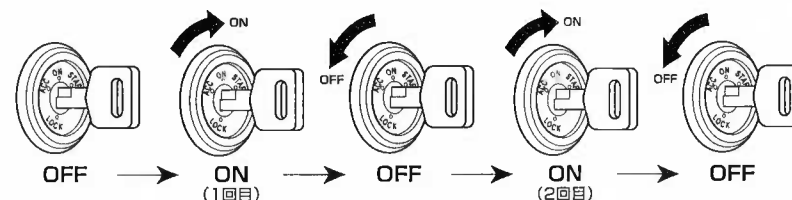
注意

車を使用しない状態が15日以上続くと、エンジンスターター本体はスリープ機能(→30ページ「スリープ機能について」)が働きます。その場合は、リモコンによるリセットは出来ませんので、下記の方法でリセット操作にてリセットして下さい。

リモコンを使用せずに警報機をリセットする

警報機作動中にエンジンスターター本体がスリープモードへ入ってしまった場合、またはリモコンが紛失あるいは故障してしまった場合は、下記の方法で警報機をリセットして下さい。

ステップ 1 キーを差し込み、下記の操作を約4秒以内に行ってください。



注意

車内へ入る場合、警報機は作動中のため警報します。よって、本操作はやむを得ない場合以外は絶対に行わないで下さい。また、操作の際には耳を痛めないよう十分注意して下さい。また、上記操作中は、絶対にリモコンスイッチを操作しないで下さい。

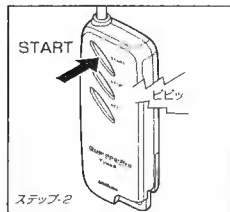
リモコンでエンジン始動する

ステップ 1 あらかじめ車を下記のような状態にします。

1. パーキングブレーキを確実にかける。
2. シフトレバーはPレンジに入れる。
3. 必要に応じてエアコンをセットする。
4. オートライト装着車は、ライトスイッチをOFFにする。
5. キーを抜く。



注意 リモコンでエンジン始動中は、エアコン（ヒーター）以外のスイッチはOFFして下さい。リヤ熱線や大容量オーディオ等を併用されますと、一部の車種ではハーネス接続部周辺が発熱し故障の原因となる恐れがあります。



ステップ 2 リモコンのロッドアンテナを引き出してSTARTスイッチを押します。

リモコンのロッドアンテナを最後まで引き出して、送信音「ビピッ」が鳴るまでSTARTスイッチを押し続けます。

ステップ 3 車のエンジンが始動します。

数秒後、スターターが回りエンジンが始動します。一度で始動しない場合は、3回まで自動的に再始動（リトライ）します。



リモコンによるアイドリング中は、エンジンスターター本体からの警告音「ビッ」が断続的に鳴り始めます。警告音は、残り時間に運動して徐々に短くなり、自動停止1分前は連続音となります。使用者にキー以外でのエンジン始動を知らせます。

警報機作動中にリモコンでエンジン始動した場合、振動センサーと電圧パルスセンサーは自動的にキャンセルされ、エンジン始動による誤動作を防止します。

さらに、セキュリティインジケータの点滅が「3秒に1回点滅」から「1秒に1回点滅」に自動的に変化します。

振動センサー	電圧パルスセンサー	セキュリティインジケータ
機能停止	機能停止	約1秒に1回点滅

表.リモコンによるエンジン始動時の各センサーの動作



リモコンによるエンジン始動後、リモコンにてエンジン停止した場合もしくはタイマーにより自動停止した場合、警報機は自動的にスタンバイモードを経て監視モードへ復帰します。



警告 エンジンスターターによるエンジン始動後、車を運転する場合は、ドアを開ける前に必ず警報機をリセットして下さい。警報機をリセットせずに走行すると、重大な事故の原因となります。

ステップ 4 走行します。

キーを差し込み、ONの位置まで回して下さい。あとは通常通り走行出来ます。



注意 キーを回す際に、誤ってSTART (STT) の位置まで回すとスターターモーターを傷める場合があります。



- ・警報機が作動中の場合は、リセットして下さい。
- ・安全センサーケーブルのドアスイッチ配線を行っている場合は、ドアを開けるとエンジンは停止しますので、キーにて再度エンジン始動して下さい。
→31ページ「運転席ドアスイッチ配線を行う場合」参照
- ・リモコンでエンジン始動した後、キーを「ON」にせずに約20分が経過すると、エンジンは自動停止します。自動停止時間は「10分/20分/30分」のいずれかを選択することが出来ます。
(初期状態は20分)
→28ページ「アイドリング時間の設定」参照

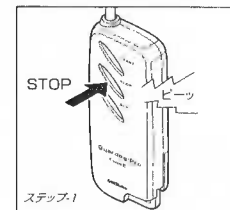
リモコンでエンジン停止する

本機によるアイドリング中は、リモコン操作でエンジンを停止することが出来ます。

ステップ 1

リモコンのロッドアンテナを引き出してSTOPスイッチを押します。

リモコンのロッドアンテナを最後まで引き出して、送信音「ビーツ」が鳴るまでSTOPスイッチを押し続けます。



ステップ 2

エンジンが停止します。

誤動作軽減機能について

振動センサー（大振動検知の場合）または電圧パルスセンサーによる連続警報（26秒）が、周囲の環境もしくはバッテリー異常により発生してしまった場合、何度も続けて警報してしまう可能性があります。そこで、60分以内に3回発生した場合、以後60分間は連続警報をキャンセルします。

●振動センサーの場合

60分以内に3回、振動センサーが大きな振動を感知して連続警報を発した場合、車体への異常（ボディ傷つけ、ガラス割られる等）によるもの以外の何らかの原因により振動センサーが働いているものと判断し、以後60分間は大きい振動を感知しても威嚇警報モード（1秒）にて警報し、連続警報モードでは警報しません。この時、60分経過すれば、自動的に復帰します。また誤動作軽減モード中に警報機をリセットすると、誤動作軽減モードもリセットされます。

●電圧パルスセンサーの場合

60分以内に3回、電圧パルスセンサーにより連続警報を発した場合、ルームランプ点灯以外の何らかの原因による電圧変動が起っていると判断し、以後60分間は電圧パルスセンサーは感知しません。この時、60分経過すれば、自動的に電圧パルスセンサーは再起動します。また、誤動作軽減モード中に警報機をリセットすると、誤動作軽減モードもリセットされます。

警報履歴確認機能について

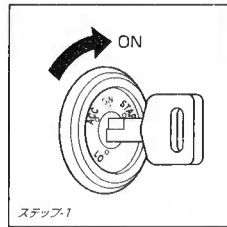
センサーが異常を感知して警報が行われた場合、どんな異常を感知したのか、リセットした時にブザー音とセキュリティインジケータの点滅回数でお知らせします。

ブザー音	点滅回数	事象
ヒュン	1回点滅	何も感知しなかった、あるいは小振動を感知して威嚇警報した場合
ヒュンヒュン	2回点滅	大振動を感知して連続警報した場合
ヒュンヒュンヒュン	3回点滅	ドア開（電圧変動）を感知して警報した場合

リモコンによるエンジン始動の自動停止時間を「10分/20分/30分」のいずれかに変更する事が出来ます。
お取り付け時(初期状態)のアイドリング時間は「20分」です。

ステップ1 キーをONの位置にします。

この時、誤ってエンジンを始動させないで下さい。
以降の操作が出来ません。

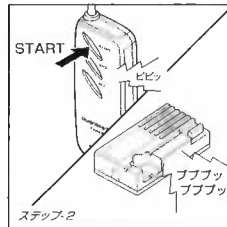


ステップ1

ステップ2 10秒以内にリモコンのSTARTスイッチを押します。

エンジンスターター本体から断続音「ブブッ ブブッ…」の3連音が鳴ります。

- メモ**
- ・10秒以内に操作が完了しない場合は設定出来ません。キーをOFFに戻し、ステップ1からやり直して下さい。
 - ・リモコンスイッチは反応音があったら離して下さい。押し続けると、2～3秒後に再度スタート信号が送信され「30分」に設定されます。



ステップ2

ステップ3 30秒以内に次の操作を行います。

リモコンのSTARTスイッチを押してから30秒以上経過してしまった場合は、エンジンスターター本体から「ビービー」という警告音がして、その後の操作が無効になります。キーをOFFに戻しステップ1からやり直して下さい。

(1)「10分」に設定する場合

リモコンのSTOPスイッチを押します。

エンジンスターター本体から「ブー」という音がして、10分が設定されたことを知らせ、鳴り止みます。

(2)「20分」に設定する場合

リモコンのACCスイッチを押します。

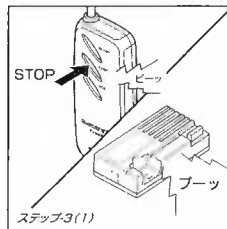
エンジンスターター本体から「ブーブー」という音がして、20分が設定されたことを知らせ、鳴り止みます。

- メモ**
- リモコンのACCスイッチを押す毎に、「ビー・ビッ」と「ビビビビッ」音が交互に鳴りますが、設定には支障がありません。

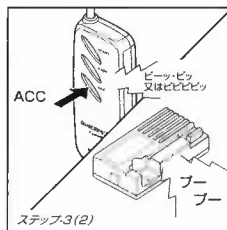
(3)「30分」に設定する場合

リモコンのSTARTスイッチを押します。

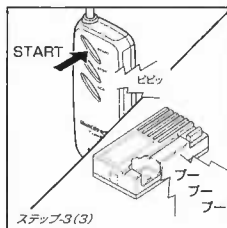
エンジンスターター本体から「ブーブーブー」という音がして、30分が設定されたことを知らせ、鳴り止みます。



ステップ3(1)



ステップ3(2)



ステップ3(3)

ステップ4 キーをOFFにします。

OK! 以上でアイドリング時間の設定は終了です。

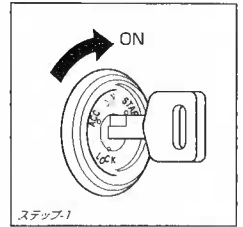
- メモ**
- 車のバッテリーを外したり車種別専用ハーネス(アース線)を外した場合には、初期設定(20分)に戻ります。

ターボタイマーの設定/解除方法

お取り付け時(初期状態)はターボタイマーの設定が解除されています。

ステップ1 キーをONの位置にします。

この時、誤ってエンジンを始動させないで下さい。
以降の操作が出来ません。

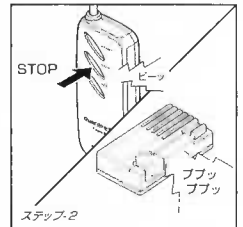


ステップ1

ステップ2 10秒以内にリモコンのSTOPスイッチを押します。

エンジンスターター本体から断続音「ブブッ ブブッ…」の2連音が鳴ります。

- メモ**
- ・10秒以内に操作が完了しない場合は設定出来ません。キーをOFFに戻し、ステップ1からやり直して下さい。
 - ・リモコンのスイッチは反応音があったら離して下さい。押し続けると、2～3秒後に再度ストップ信号が送信され、ターボタイマーの設定が解除となります。



ステップ2

ステップ3 30秒以内に次の操作を行います。

リモコンのSTOPスイッチを押してから30秒以上経過してしまった場合は、エンジンスターター本体から「ビービー」という警告音がして、その後の操作が無効になります。キーをOFFに戻しステップ1からやり直して下さい。

(1)ターボタイマーを設定する場合

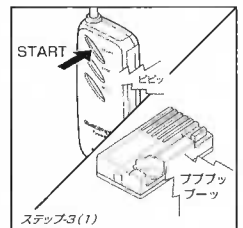
リモコンのSTARTスイッチを押します。

エンジンスターター本体から「ブブブブー」という音がして、ターボタイマーが設定されたことを知らせ、鳴り止みます。

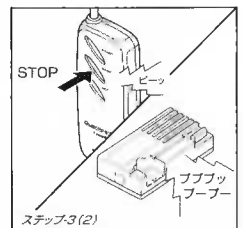
(2)ターボタイマーを解除する場合

リモコンのSTOPスイッチを押します。

エンジンスターター本体から「ブブブブーブー」という音がして、ターボタイマーの設定が解除されたことを知らせ、鳴り止みます。



ステップ3(1)



ステップ3(2)

ステップ4 キーをOFFにします。

OK! 以上でターボタイマーの設定/解除は終了です。

- メモ**
- 車のバッテリーを外したり車種別専用ハーネス(アース線)を外した場合には、再度設定する必要があります。

日本語マニュアル

日本語マニュアル

ターボタイマー機能について

ターボタイマーの使用方法

本機のターボタイマー機能は、フルオート方式を採用しています。
アフターアイドルの時間は、車の走行状況に合わせて自動的に設定されます。

ステップ 1 キー、またはリモコンで、エンジンを始動させます。

ステップ 2 走行します。

少なくとも30秒間は走行状態にしないと、ターボタイマーは動きません。

ステップ 3 走行終了後、シフトレバーをPレンジにしてからキーをOFFにします。
本体から「プップッ」というカウントダウン音がして、ターボタイマーが作動を開始します。

警告 周囲の安全を確認の上、パーキングブレーキをしっかりとかけて下さい。
シフトレバーは、必ずPレンジにして下さい。重大な事故につながる恐れがあります。

- 車によってはターボタイマー作動中にキーが抜けない場合があります。
このような場合は、別売の「日産キーロックアダプター」をご使用下さい。
- 車によっては正常にターボタイマーが作動しない場合があります。
このような場合は、別売の「ターボタイマーストール防止アダプター」をご使用下さい。
- ターボタイマーのアフターアイドル時間は10秒～2分50秒の範囲で自動的に設定されます。

リモコンでターボタイマー停止

リモコンのSTOPスイッチを押す事により、ターボタイマー作動中のエンジンを停止させる事が出来ます。

スリープ機能について

車を使用しない状態が15日間以上続くと、バッテリーの消耗を抑えるスリープ機能が働きます。
スリープ機能が働くと、リモコン操作（エンジン始動/停止、警報機セット/リセット）は出来ません。
スリープ機能の解除は、エンジンスタート本体のパワースイッチを一度切って入れなおすか、キーを使ってエンジンを始動させることで解除出来ます。
また、警報機作動中にスリープ機能が働いた場合、警報機のリセットはキーで行うか、スリープ機能を解除してからリモコンで行って下さい。

本機の電源を切る時は

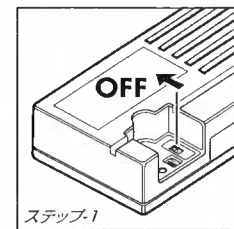
車を車検・整備に出す時は安全のため、エンジンスタート本体のパワースイッチを切って下さい。
メモリー機能により、次回お使いになる際も再度オートマチック車の登録やターボタイマーの設定等は必要ありません。エンジンスタート本体のパワースイッチをONにするだけでスイッチを切る前と同じ状態で使用出来ます。

メモ 車種別専用ハーネスを外したり、整備の際に車のバッテリー端子を外した場合は、再度オートマチック車の登録からやり直す必要があります。

運転席ドアスイッチ配線を行う場合（エンジンスタート安全機能）

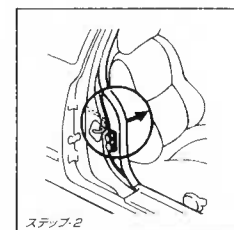
安全センサーケーブル（茶コード）をドアスイッチへ配線する事により、リモコン始動でのアイドル中に、ドアを開けるとエンジンを停止させる事が出来ます。

ステップ 1 エンジンスタート本体のパワースイッチを切ります。
既に付属の安全センサーケーブルがエンジンスタート本体に接続されている場合は、一旦外してから作業を行って下さい。



ステップ 1

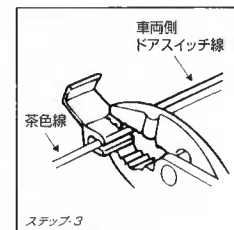
ステップ 2 車の運転席側ドアスイッチ線を探します。
ドアを開けた時は0V、閉めた時に12Vとなる線です。（必ずテスターをご使用下さい。）



ステップ 2

メモ 半ドア警告灯および、ルームランプの点灯をさせるためのスイッチです。

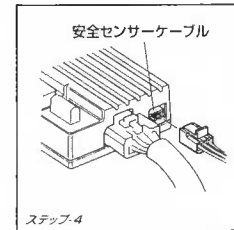
ステップ 3 安全センサーケーブルの茶色線を接続します。
安全センサーケーブルの茶色線先端のギボシ端子部をニッパ等でカットし、ステップ2で見つけた線に接続します。（付属のエレクトロタップ使用。）



ステップ 3

注意 接触不良が起こらない様に確実に取り付けて下さい。ドアスイッチ検出がうまく行われない場合があります。

ステップ 4 安全センサーケーブルをエンジンスタート本体のコネクター部(CN2)に接続します。



ステップ 4

OK! 以上でドアスイッチ配線は終了です。

パワースイッチをONにしてリモコンでエンジンを始動させ、ドアを開けた時にエンジンが停止する事を確認して下さい。

無線リモコン

オプション

ボンネットスイッチ(別売)の取り付けを行うことにより、ボンネットが開いている時のリモコンでのエンジン始動が出来なくなり、エンジンルーム内での各種作業中の安全を確保出来ます。出来るだけボンネットスイッチの取り付けを行って下さい。取り付けに関しては、ボンネットスイッチに付属の取扱説明書をよくお読み下さい。

ボンネットスイッチ(別売)取り付けとドアスイッチ配線の両方を行う場合(エンジンスタート安全機能)

ボンネットスイッチ(別売)取り付けとドアスイッチ配線の両方を行う事で、ボンネットが開いたり、ドアが開いたりしている時は、エンジンが動作しないよう安全確保が出来るようになります。

注意 安全センサーケーブルの茶色線は、ボンネットスイッチとドアスイッチの検出を併用するようになっております。両方を配線する場合には別途エレクトロタップ*を1個ご用意頂く事になりますので、あらかじめお買い求め下さい。
*【推奨品:自動車用低電圧線(AV線)0.5mm²サイズ適応品】

ステップ1 車の運転席側ドアスイッチ配線をして下さい。

31ページ「運転席側ドアスイッチ配線を行う場合」の作業をステップ3まで行った後、以下の作業を行って下さい。

ステップ2 ボンネットスイッチを取り付けます。

ボンネットスイッチ付属の取扱説明書をよく読み、エンジンルーム内のボンネットスイッチ設置・取り付け作業まで行って下さい。

ステップ3 ボンネットスイッチの茶色線を接続します。

ボンネットスイッチの茶色線をグロメット等を利用してエンジンルーム内から車室内へ引き込み、先端のギボシ端子部をニッパ等でカットします。既にドアスイッチ配線をした安全センサーケーブルの茶色線にご用意頂いたエレクトロタップ等で接続します。

注意 接触不良が起きない様に確実に取り付けして下さい。ボンネットスイッチ検出がうまく行われない場合があります。

ステップ4 安全センサーケーブルをエンジンスタート本体のコネクター部(CN2)に接続します。

ステップ2で途中となっていたボンネットスイッチの取り付け作業も完了させて下さい。

OK! 以上でボンネットスイッチとドアスイッチ配線作業は終了です。

パワースイッチをONにして、リモコンでエンジンを始動させ、ドアを開けた時及びボンネットを開けた時にエンジンが停止する事を確認して下さい。

注意 ボンネットスイッチとドアスイッチ配線を併用した場合、ボンネットを開けると、半ドア警告灯及びルームランプが点灯するようになります。これは本機が車側の安全検出を行う回路により点灯するものであり、異常ではありません。

「EGSシリーズ適応車種一覧表」をよくご覧になり、必要に応じてオプション(別売)をご使用下さい。

●ボンネットスイッチ

車のボンネットが開いている時に、リモコンでのエンジン始動が出来なくする安全装置です。

●ホンダレジェンド用DPSアダプター

レジェンド(型式KA7~9のDPS装着車)ドライブポジションシステムのチルトステアリングのAUTO機能を作動させることが出来るようになります。

●日産キーロックアダプター

一部の車種でターボタイマーの作動中、キーが抜けなくなるのを防止します。

●ターボタイマーストール防止アダプター

一部の車種でキーをOFFにし、ターボタイマーを作動させる際、インジケータランプが一瞬点灯または点灯したままとったり、エンジンがストール(停止)してしまうのを防止します。

●キーレスアダプター(ミツバG-System)

本機のリモコン操作でドアのLOCK/UNLOCKが行えるようになります。一部の車種ではモーターキット(別売)が必要になります。必ず事前に「EGSシリーズ適応車種一覧表」を確認して下さい。

キーレスアダプター(別売)の接続について

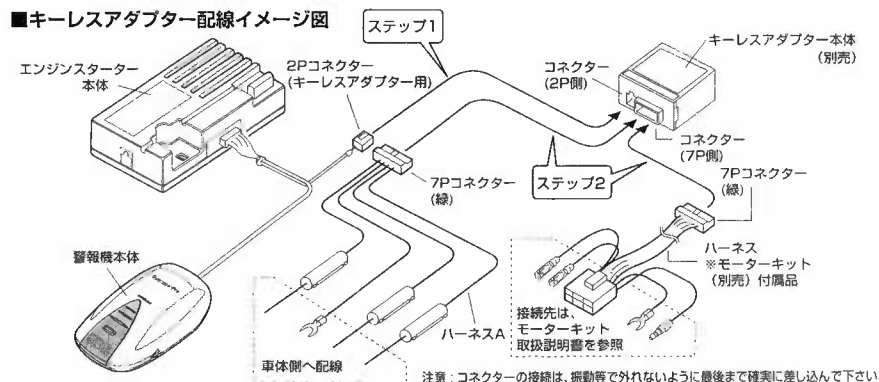
ステップ1 Gケーブルの白色2Pコネクター(キーレスアダプター用)をキーレスアダプター本体のコネクター部(2P側)へ接続します。

注意 この時、キーレスアダプター(別売)に付属している「ハーネスB」は使用しません。

ステップ2 キーレスアダプターの取扱説明書に従って、キーレスアダプター本体の7Pコネクター(緑)側の配線を行います。

注意 車種によっては、別途、「モーターキット」(別売)を必要とする場合があります。あらかじめ「EGSシリーズ適応車種一覧表」をよく確認してから配線を行って下さい。

■キーレスアダプター配線イメージ図



■ドアロック機能の使用方法

●ドアロック方法

リモコンにより警報機をセットすると、それと連動してドアがロックされます。

●ドアアンロック方法

リモコンにより警報機をリセットすると、それと連動してドアがアンロックされます。

電池の交換方法

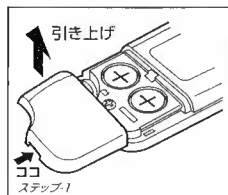
リモコンは新品の電池で約3000回*以上使用出来るように設計されており、使用中、電波到達距離が短くなってきたら電池を交換して下さい。(使用電池:アルカリボタン電池LR44×2)また、製品に添付されている電池はテスト用のものですので、3000回以内に電池交換が必要になる場合があります。

*使用温度によっては若干少なくなります。

ステップ1 電池蓋を外します。

マイナスドライバーの先端等で電池蓋の端を引き上げるようにして外して下さい。

注意 外す際に、マイナスドライバーの先端等でケガをしないよう、ご注意ください。

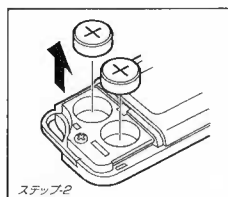


ステップ2 電池を交換します。(アルカリボタン電池 LR44×2個)

電池のプラス、マイナスの向きに注意して交換して下さい。

電池のプラス面が蓋側となります。

注意 電池を交換の際は、2個とも新品の電池に交換して下さい。



ステップ3 電池蓋を閉じます。

電池のプラス、マイナスの向きが合っていない場合は、電池蓋がうまく閉じませんので、ご注意ください。

ステップ4 交換後、リモコンの動作確認を行って下さい。

リモコンを紛失した時は

リモコンを紛失または修理不可能な破損をした場合は、リモコンのみ購入が出来ます。この場合、新しいリモコンのIDコードをエンジンスタート本体に登録する必要があります。詳しくは別売リモコンに付属の説明書をご覧ください。リモコンは、販売店または取扱店へご注文下さい。

メモ リモコンのID登録はエンジンスタート本体側の操作で行います。従ってエンジンスタート本体をお送り頂く必要はありません。エンジンスタート本体に登録出来るリモコンは1台分のみとなりますので、元のリモコンは使用出来なくなります。

このような時	チェックして下さい	処 置
リモコンのスイッチを押しても音が鳴らない。	スイッチを押す時間が短くありませんか?	0.5秒以上スイッチを押して下さい。
	リモコンの電池は消耗していませんか?	電池を新品に交換して下さい。
リモコンのスイッチを押してもエンジンスタート本体が作動しない。	車のキーがONになっていませんか?	キーを抜いて下さい。
	リモコンのアンテナを伸ばしてありますか?	アンテナを伸ばして下さい。
	室内アンテナのアンテナ線が外れていませんか?	アンテナ線を接続して下さい。
	車のバッテリー端子が外れていませんか?	端子を接続し「オートマチック車の登録」を行って下さい。
	15日以上エンジンの始動を行わない状態でしたか?	スリープモードになっています。パワースイッチを一旦切って入れ直すか、キー操作でエンジンを始動させて下さい。
車のバッテリーは弱っていませんか?	ドアが開いていませんか? (運転席のドアスイッチ配線を行った場合。)	ドアを開けて下さい。
	ボンネットが開いていませんか? (別売ボンネットスイッチを取り付けた場合。)	ボンネットを閉めて下さい。
ドアスイッチへの配線(任意)が間違っていますか?	正しく配線して下さい。	
	フットブレーキへの配線(必要時)が間違っていますか?	正しく配線して下さい。
エンジンスタート本体から「ブーブ、ブーブ…」音が鳴っていて、リモコンのスイッチを押しても、まったく作動しない。	バッテリー端子を外したり、バッテリー交換を行いましたか?	オートマチック車の登録情報が消えています。再度「オートマチック車の登録」を行って下さい。
	ヒューズ交換、専用ハーネスとのカブラー脱着及び黒色アース線の再接続を行いましたか?	
リモコンのSTARTスイッチを押すとメーターパネルは点灯するが始動しない。	車のシフトレバーがPレンジ以外に入っていますか?	シフトレバーをPレンジに入れて下さい。
	車のバッテリーは弱っていませんか?	バッテリーを点検し正常な状態にして下さい。
リモコンのSTARTスイッチを押すと始動動作を行うが、エンジンがかからない。	オルタネーター(L端子)配線を行いましたか?	オルタネーター(L端子)配線を行って下さい。(詳しくはP.13を参照してください。)
	車のバッテリーは弱っていませんか?	バッテリーを点検し正常な状態にして下さい。
エンジンスタート本体のパワースイッチをONにしても電源が入らない。	エンジンスタート本体のヒューズが切れていませんか?	ヒューズを交換して下さい。
	専用ハーネスのカブラーが外れていませんか?	カブラーを確実に差し込んで下さい。
	専用ハーネスの黒色アース線が外れていませんか?	黒色アース線を確実に接続して下さい。
電波到達距離が短くなった。	リモコンの電池は消耗していませんか?	電池を新品に交換して下さい。
	リモコンのアンテナは伸ばしてありますか?	リモコンのアンテナを伸ばして下さい。
	リモコンのアンテナに体の一部が触れていませんか?	操作の際はアンテナに触れないようにして下さい。
	ターボタイマーが作動しない。	ターボタイマーの設定を行っていますか? 車を30秒以上走行させましたか?
ターボタイマーが作動しない。	フットブレーキへの配線(必要時)を行っており、フットブレーキを踏んだままキーをOFFにしていますか?	フットブレーキを踏まずにキーをOFFにして下さい。
	車のシフトレバーがPレンジ以外に入っていますか?	シフトレバーをPレンジに入れて下さい。
	ボンネットが開いていませんか? (別売ボンネットスイッチを取り付けた場合。)	ボンネットを開けて下さい。
	リモコンのSTARTスイッチを押してもエンジンが始動せず、警告音「ビー・ビー…」が鳴り続ける。	車のシフトレバーがPレンジ以外に入っていますか? 車のキーがACCになっていませんか? 専用ハーネスの品番は正しいですか?

このような時	チェックして下さい	処 置
リモコンのACCスイッチを押していないのに警報機が勝手にセットする。	キーレスアダプター用2Pコネクターの配線処理は正しく行われていますか?	①エンジン始動直後にセットしてしまう場合 コネクターの接続ミスが考えられます。キーレスアダプター用2Pコネクタがエンジンスタート本体へ接続されていないか確認して下さい。 ②エンジン始動に関係なくセットしてしまう場合 コネクターの絶縁処理が不十分である可能性が考えられます。キーレスアダプター用2Pコネクタがきちんと絶縁されているか確認して下さい。
リモコンのACCスイッチで警報機がセットもリセットも出来ない。	エンジンスタート本体と警報機がしっかり接続されていますか? 15日以上エンジンの始動を行わない状態でしたか?	エンジンスタート本体のCN3コネクタ口 に5Pコネクターを確実に差し込んで下さい。 スリープモードになっています。 パワースイッチを一旦切って入れ直してからリモコン操作をして下さい。
リモコンのACCスイッチで警報機がリセット出来ない。	15日以上エンジンの始動を行わない状態でしたか?	エンジンスタート本体がスリープモードのときはリモコン操作が出来ません。
勝手に警報する。	警報時間はどの位ですか? どのセンサーにより警報していますか? (リセットしてセキュリティインジケータの点滅回数を判断して下さい。)	①1秒位の場合(小振動を感知している) ・警報機本体をしっかりと固定して下さい。 ・下記のような状況では、警報する場合があります。 1. 強風、豪雨、雷雨、台風等の気象条件の場合。 2. 地震が起きた場合。 3. 線路付近、幹線道路沿い、工事現場付近、飛行場付近等、振動の発生する場所。 ②26秒以上の場合 (a) 振動センサーにより警報している場合 ・警報機本体をしっかりと固定して下さい。 ・感度を下げして下さい。 (b) 電圧バルスセンサーにより警報している場合 ・車のバッテリーが弱っていないか確認して下さい。 ・警報機本体とエンジンスタート本体、エンジンスタート本体と車両との配線及び接続を確認して下さい。 ・他の電装品が動作していないか確認して下さい。 ・エンジン停止時に他の電装品等の影響でバッテリー電圧が変動する車両については、電圧バルスセンサーがその電圧変動に反応してしまう為、使用出来ない場合があります。
振動を与えてもまったく警報しない。	警報機本体はしっかりと固定されていますか?	警報機本体をしっかりと固定して下さい。 (振動が伝わりやすい所に設置して下さい。)
	警報機は監視モードになっていますか?	セキュリティインジケータが3秒に1回の点滅をしているとき以外は、振動センサーは感知しません。
強い振動を与えても連続警報しない。	警報機本体はしっかりと固定されていますか?	警報機本体をしっかりと固定して下さい。 (振動が伝わりやすい所に設置して下さい。)
	警報機が誤作動軽減モードに入っていますか?	一旦リセットした後、再度確認して下さい。
ルームランプ点灯しても連続警報しない。	エンジンスタート本体と警報機がしっかり接続されていますか?	エンジンスタート本体のCN3コネクタ口 に5Pコネクターを確実に差し込んで下さい。
	電圧バルスセンサーはONに設定されていますか?	・モード切替ボタンで確認して下さい。(19~20ページ「電圧バルスセンサーのON/OFF切替方法」参照。) ・ルームランプ点灯時のバッテリー電圧変動が非常に小さい車両については、電圧バルスセンサーが感知出来ない場合があります。
	警報機は監視モードになっていますか?	セキュリティインジケータが3秒に1回の点滅をしているとき以外は、電圧バルスセンサーは感知しません。
	警報機が誤作動軽減モードに入っていますか?	一旦リセットした後、再度確認して下さい。

リモコンについて

(各種機能設定 [ターボタイマー設定、アイドリング時間設定等] を除く。)

スイッチ操作	ブザー音	意味
START	ビッ	エンジンの始動
STOP	ビー	エンジンの停止
ACC	ビーッ・ビッ	警報機のセット
	ビビビビ	警報機のリセット

エンジンスタート本体について

(オートマッチング車登録、キー始動学習を除く)

ブザー音	意味
ブッブッ	本体の電源が入った場合。
ブッ	リモコンによるエンジン始動を自動検出した場合。オルタネータ(L端子)配線が正しい場合。
ブッ	リモコンでエンジンが始動した場合。
ブッ ~ ブー	リモコンでエンジン駆動中。 リモコンでエンジン始動直後から数秒間隔で鳴り始め、残り時間に連動して短くなります。 自動停止直前(1分前)は連続音になります。
ブブッ	スリープから復帰した場合。
ビービー	リモコンでエンジンが始動しない場合。
ビービービー	リモコンでエンジン駆動中にエンストした場合。
ビー・ビー…… (繰り返し)	車との相性が悪い(悪くなった)場合。 *ユーザーサービス係へお問い合わせ下さい。 *警告音はイグニッションキーをONの位置にすれば停止します。

エンジンスタート本体のモードスイッチについて

(商品出荷時は全てOFFとなっております。)

スイッチ番号	モードメニュー	OFF	ON
1	シフト検出	自動検出	キャンセル(通常使用しません。) *フットブレーキへの配線が必要です。(16ページの「フットブレーキ検出方式への変更」を参照。)
2	始動検出	自動検出	オルタネータのL端子線の変化のみで、エンジンの始動状態を検出する。 *L端子線への配線が必要です。(13ページの「L端子検出方式への変更」を参照。)

警報機について

●操作時及び定常時の動作仕様

警報機動作仕様				
動作モード	ブザー	セキュリティインジケータ	振動センサー	電圧バルスセンサー
停止時	無音	消灯	停止	停止
セット操作時	"ヒュンヒュン"	2回点滅	停止	停止
スタンバイモード	無音	0.5秒に1回点滅(繰り返し)	停止	停止
監視モード	無音	3秒に1回点滅(繰り返し)	感知	感知
監視モード(エンスタ始動時)	無音	1秒に1回点滅(繰り返し)	停止	停止
リセット操作時	"ヒュン"等 <small>※27ページ「警報機初期設定機能について」</small>	1回点滅等 <small>※27ページ「警報機初期設定機能について」</small>	停止	停止

●軽い振動を感知した場合の動作仕様

警報機動作仕様			
警報モード	警報時間	ブザー	セキュリティインジケータ
威嚇警報	1秒	"ヒュン"	0.5秒に3回点滅×2

●強い振動またはルームランプ点灯(電圧バルスセンサー)を感知した場合の動作仕様

警報機動作仕様			
警報モード	警報時間	ブザー	セキュリティインジケータ
連続警報	26秒	"ヒュヒュヒュ……"	0.5秒に3回点滅(繰り返し)

その他

その他

●リモコン

■型式名	TX-05M
■技術基準	RCR標準規格 テレコントロール用 無線設備適合
■送信周波数	426MHz帯の10波のうち1波使用
■通信方式	単方向通信方式
■送信出力	1mW以下
■電波方式	MSK変調1200bps
■呼出名称	送信時自動送出
■周波数安定度	±4ppm以下
■周波数偏移	±2.5KHz
■スイッチ	START/STOP/ACC
■重量	25g(電池含む)
■送信確認方式	フザー
■送信時間	3秒以内
■送信休止時間	2秒以上
■送信アンテナ	内蔵ロッドアンテナ
■制御コード	アドレスコード32ビット/コントロールコード8ビット
■動作温度範囲	-20℃~+60℃
■定格電圧	DC3V
■使用電池	アルカリボタン電池 LR44×2個
■電池寿命	電池交換無しで3000回以上送信可能
■外観寸法	71.5mm(H)×32mm(W)×12.5mm(D) (突起部除く)

●エンジンスターター本体

■型式名	RX-05M
■受信周波数	426MHz帯の10波のうち1波使用
■受信感度	-9dbμV以下
■局発安定度	±4ppm以下
■アンテナ	1/4λ室内アンテナ
■動作温度範囲	-20℃~+70℃
■復調コード	アドレスコード32ビット/コントロールコード8ビット
■電源電圧	DC12V
■パワー系制御電流	突入電流80A 最大電流25A
■外観寸法	32.5mm(H)×120mm(W)×70mm(D) (突起部除く)
■消費電力	通常待機時平均12mA以下
■始動検出	専用ハーネス(自動) オルタネーターL端子(選択)
■安全対策	パーキングポジション(自動) フットブレーキ(選択) ドア開放(任意)、ボンネット解放(任意) 自動車用ブレードヒューズ25A
■ヒューズ	20分後自動停止(設定により10分/30分変更可能)
■タイマー	140g
■重量	

●警報機本体

■電源電圧	DC12V
■消費電流	監視モード時 平均 4mA以下 警報モード時 MAX225mA以下
■動作温度範囲	-20℃~+80℃
■警報音圧	130dB
■重量	179g
■外観寸法	114mm(H)×70mm(W)×30mm(D)
■外観寸法	(H×W×D)

●お取り付け時に、設定内容をご記入下さい。

専用ハーネス	: ()
電圧センサー	: ON OFF
スタンバイ時間	: ノーマル 30秒
L端子配線	: 無 有
グロー設定	: 無 有
キー学習設定	: 無 有
アイドリング時間	: 20分 10分 30分
ターボタイマー設定	: 無 有

※車のバッテリーを外したり車種別専用ハーネス(アース線)を外した場合には、再度設定する必要があります。

※この保証書は本書に明示した期間、条件のもとにおいて無償修理をお約束するものです。したがってこの保証書によってお客様の法律上の権利を制限するものではありません。

〈保証規定〉

本商品は、厳重な品質管理のもとに製造され、検査に合格し、出荷されておりますが、お客様の正常な状態での使用中、万一故障が発生した場合には、本保証書に記載の内容に基づき、無償修理をさせていただきます。

●修理は、お買い求め頂いた販売店に、本保証書および不具合内容等を記入したメモ等を添えてご依頼願います。

また、修理の際は必ず警報機・リモコン・エンジンスターター本体をセットでお渡ください。

●本保証書は日本国内に於いてのみ有効です。This warranty is valid only in Japan.

●本保証書は再発行いたしませんので、大切に保管してください。

尚、下記に該当する場合は、保証期間内であっても保証の対象とはなりませんのでご注意ください。

1. お客様の故意または過失による故障と認められた場合。
2. 商品を分解したり改造したりした形跡が認められた場合。
3. 火災、天災、事故、その他紛争等による損傷。
4. 適応外車両への取り付けや当社専用ハーネスをお使いになっていない場合。
5. 取付・取扱説明書中の注意事項を守られなかったことにより発生した故障、損傷等。
6. 保証書の添付がないか、あるいは記載事項に不足がある場合。

●消耗部品(電池、アンテナ等)やリモコンのケース破損は保証対象外です。

●修理によって生じた交換部品は原則としてお返しいたしません。

●本商品の製造終了後5年以降は使用電子部品の製造中止等により修理不能になる場合がありますので予めご了承ください。

※保証期間経過後の修理については、当社ユーザーサービス係までご相談ください。

修理によって機能の維持が可能な場合は、お客様のご要望により有償修理致します。